学校現場に通い続けた
学生の手作り!

学校の先生やTAの先輩から
役立つアドバイスが
もりだくさん!

学校支援ボランティア・学校インターンシップのテキスト

～より良い教育現場体験のために～

まえがき

本書は、大正大学での取り組み※をもとに作成された、学校インターンシップ、学校支援ボランティア､或いは教育連携事業と呼ばれている取り組みの大学生用のテキストです｡この取り組みは、大学生が、小・中・高等学校の学校教育現場に参加し、生徒の学習活動の支援や、教員の教育活動の補助を行うというものですが、特に初めて教育現場にアシスタントとして参加する大学生のみなさんにとっては、現場で戸惑うことは本当に多いと思います。

他方､こうした事業をこれから計画している､或いは､はじめたばかりの大学の先生においても、どのように大学生に学んでもらうか、悩むことも多いのではないかと思います。この取り組み自体が、新しいものであるため、教職を専門とする大学教員であっても、アシスタントである学生が現場でどう動くとよいのか、考えさせられることがあるのではないかと思います。

私達は、こうした課題に直接役立つ資料は何かないかと願うわけですが、教職関係の教科書は数多くある一方で、この事業に特化した、学生用のテキストがなかなか見られないという現状があったかと思います。

そこで、この事業に特化したテキストとして、本書を作成いたしました。この作成の主役になったのが、（なんと？）現役の大学生です。大正大学の本事業を利用し、4 年間、複数の学校現場に熱心に通い続け、学校の先生方から、信頼を得て様々な仕事を任されるようになった、いわば、熟練のティーチング・アシスタント（ＴＡ）が主導し、自らの実践経験や、自分で築いたネットワークを生かして、大学生用のオリジナルのテキストを 2 年間かけて作成しました。

本書の特徴をまとめると、次の点になるかと思います。

第一に、ネット上で本書の無料 DL ができるようにいたします（URL は下記になります)。ご自由にご利用下さい。幅広くお役に立てることが、我々にとっての喜びです。

http://shushu.rakurakuhp.net/i_814633.htm

第二に、何より、現役の TA の手によって作成されたテキストという点です。大学の教員や学校の教員ではなく、著作物の執筆経験のない学生自身がつくることには、もちろん課題もたくさんありますし、完成度について諸々のご批判もあろうかと思います。ですが、新しい事業であるゆえ、必ずしも TA の実践者（当事者）としての経験のない学校の教員や大学教員にはない、現役ならではの経験や知恵が生かせる点も少なくはないのではないかと思われます（下記の通りＴＡを受け入れて下さっている学校の教員からの、直接的なアドバイスもたくさん盛り込まれています)。

どうぞ、温かい目でご利用いただけますと嬉しいです。

第三に、教育現場体験を通して、大学生が学んだり感じたりした実践の知恵や疑問点を、本書に収録しています。これには、これまで学生達が、学期末のレポートや日頃提出する報告書にて言語化してきた、他の学生とも共有可能な知識や、今回、テキスト作成にあたって、学生達から新たに収集したアンケート､依頼して答えてもらった学生の声をもとにしています｡その意味で､本書は､編著者の個人的な体験談だけを収めているというわけではありません。

第四に、大学生を受け入れ、非常に熱心にご指導下さっている、学校の先生方の生の声を収録しています。現場体験を通して、疑問や不安に思う点を、大学生のアンケートにて集め、それをもとに先生方に質問をし、親身に答えて下さった内容等が掲載されています。

第五に、TA とは何か、現場で注意すべき点や、報告書の書き方等、現場体験での基本的な事柄について、本事業の授業を直接担当してきた大学教員が参加し、記載しています。

第六に、第一著者による特別支援学級での長期にわたる TA 活動の経験を生かしながら、参加する際に、注意すべき点や必要な基本的な知識が盛り込まれています。

このように、編著者の学生の個人的な体験談だけでなく、むしろ、複数の大学生や学校の先生方らの、「多様な声」を集め、それらを、編著者がオーケストラの演奏をまとめる指揮者のような立場でまとめることを心がけたつもりです。「著者」としなかったのは、自ら執筆するだけでなく、多様な声を編集する役割を担ったからという理由からです。

それで、本書は、大正大学やその連携校の実情に即して作成されています。そういう意味で、ローカルなテキストであり、本学にとってはそれはメリットですが、逆に他大学の方からすると、本学に特化されるような部分が見受けられると思います。しかし、大学生の疑問や学校の先生からのアドバイス、基本的に TA が守るべきマナーなど、他大学共通する部分も多いと思いますので、そうした部分でご活用いただければと思っています。

また、連携校の特徴や出勤管理のシステムの説明など、特に前半部分の大正大学のやり方に従って記載した部分に関しては、各大学の事情に合わせて、柔軟に変更していただいてもかまいません（その際は、引用元として本書をご明記の上、ご利用いただければ幸いです）。

ただ、学校の先生方からのインタビュー内容等に関しては、慎重な扱いをお願いしたいです。本書では先生方の御厚意から実名を掲載させていただいており、かつ、直接先生方から文面のチェックをいただいたうえで、掲載させていただいているものだからです。例えば、引用先の明記がなく、先生方の実名で、文面のみが変更されたものが世に出回るようなことがあれば、その先生がもともと発言されたものではないのに、あたかもその先生がそのように仰っていたように読み手が思ってしまう、というような誤解がでてくるかもしれません。

どうぞこれらの点をご理解いただいた上で、ご利用いただければ幸いに思っております。

本書のソースを説明しておきます。本書は、もとは、第一編著者（長島）の 2012 年度の卒業論文として大正大学人間学部教育人間学科に提出されたものです。第二編著者の教員（香川）は、大正大学の学校現場体験の授業の担当教員で、日頃この体験型の授業を担当する上で感じていた問題意識から、「学生主体による多声的なテキストづくり」というコンセプトで学校現場体験のテキスト作成を提案し、それに応えてくれた長島の卒論に指導教員として関わりました。また、大正大学の教育連携事業は、もともと、本学教育人間学科長（2012 年現在）の滝沢和彦先生が開拓されたものです。

ＴＡの活動に、これをやっておけば正解、絶対うまくいく、といった「ベストな正解」はないと思います。あの生徒さんにはこのやり方がうまくいったのに、別の生徒さんにはうまくいかない、先生によってクラスの雰囲気が全然違う、どうしたらよいのだろう、など、課題は尽きません。ですが、「ベターな教育や学習」を生み出すことはできると思いますし、それを考えていくのが、TA の面白さであり、学びではないかと思うのです。「よりよい」実践方法・知恵・振る舞い方を、書物から、自分の体験から、他の学生との議論から、先生の実践の観察・模倣、助言から、そして、生徒さんの反応を敏感に感じ取ることから、発展させ編み出していく。この癖がつくと、「いつの間にか」上達していっているのではないでしょうか。

そうした、「考え実践する楽しみ」に、本書が少しでもお役に立てばうれしいです。

※大正大学人間学部教育人間学科では，１年生が春学期から、豊島区ないしその周辺の学校の現場にＴＡとして参加する、「教育の現場を知るⅠ・Ⅱ」と、上級生が参加する「教育・現場体験Ⅰ・Ⅱ」が正規の授業として開講されています。また、上級生には授業の単位に関係なく、ＴＡ活動を継続する学生も多くいます。

編著者一同

目次

１．ＴＡを始める前に　……３
１．１　ＴＡってなんだろう？　……４
１．２　ＴＡ活動の開始までの流れは？　……４
１．３　ＴＡ活動の服装や持ち物は？　……４
１．４　ＴＡ実習校はどんなところ？　……６
１．５　さぁいよいよ活動開始！その前にＴＡ活動を行う心構えは？　……８

２．報告書はこう書こう　……１２
２．１　報告書には、なにをどう書けばいいの？　……１３
２．２　報告書がなかなか書けない（先輩からのアドバイス！）　……１６

３．先輩たちの声　……１９
３．１　ＴＡ活動学生１週間生活図＋アドバイス　……２０
３．２　ＴＡをやってみての感想　……２３
３．３　先輩からＴＡ活動のアドバイス　……２４

４．ＴＡ活動中の心得～こんな時にはこんな行動を～　……２５
４．１　叱り方がわからないのですがどうするの？＜Ｑ＆Ａ集＞　……２６
４．２　学習指導はどうするの？＜Ｑ＆Ａ集＞　……２７
４．３　児童・生徒とどうやってコミュニケーションはとるの？＜Ｑ＆Ａ集＞……２８
４．４　なにをどうしたらいいのかわからないのですが…？＜Ｑ＆Ａ集＞　……３０

５．現場の先生に聞く！！～こんな時にはこんな行動を～　……３２
５．１　先生の紹介　……３３
５．２　現場の先生に聞く！！～こんな時にはこんな行動を～　……３４

６．特別支援学級　……４３
６．１　障がいについて理解しましょう　……４４
６．２　挨拶をしましょう　……４６
６．３　コミュニケーションをとるときのアドバイス　……４７

７．特別支援学級の先生に聞く！！～こんな時にはこんな行動を～　……５２
７．１　特別支援学級の先生に聞く～こんな時にはこんな行動を～　……５３

８．現場の先生の声とアドバイス　……６０
８．１　先生にとってＴＡってどんな存在！？！？　……６１
８．２　先生に質問！教師の仕事教えて下さい！＜共通質問＞　……６２
８．３　私はこんな大学生でした！！　……６５
８．４　現場の先生からＴＡ活動をするみなさんへ　……６６

おわりに　……６９
ＴＡ活動をする学生のみなさんへ　編著者より

参考・引用文献　……７０

作成協力者一覧　……７１

ＣＯＬＵＭＮ
☆みんなで考えよう！こんな時どうする？　……３１
☆主な発達障がいの定義について　……４５

１．ＴＡを始める前に

１．１　ＴＡってなんだろう？

ＴＡとは、「Teaching Assistant」の略称です（他に、ＳＡＭ「School Assistant Member」といった呼び方をする場合もあります)。「学校支援ボランティア」や「学校インターンシップ」、或いは「教育連携事業」とも呼ばれる取り組みでは、大学生がＴＡとして、地域の小中高等学校の教室に入り、現役の学校の教員のホンモノの授業実践や生徒の活動に直接触れながら、先生方の指導や業務の補助、或いは生徒の学習の支援をしていきます。

１．２　ＴＡ活動開始までの流れは？

まず大学の教室で**事前授業**を行います。そこでガイダンスと、現場の活動に向けてのディスカッション等を行います。その後、豊島区ないしその周辺の学校に赴きＴＡとして、学校の先生の指導の補助や児童・生徒の学習の支援を行います。１か月程度、活動したのち、大学にて、**中間報告会**にて各自の実践内容について報告を行い、全体で討論をします。その後、また１カ月程度、現場でＴＡ活動し、最後に、大学で**期末報告会**を１コマ実施します。なお、ＴＡ活動期間中は、学生は、毎回所定の報告書に活動内容を記録し、教員に直接提出し、面談を受けることになっています。

◆「事前授業」…教育連携事業ないしＴＡ活動の概要や、現場で活動する際の心構えや注意事項等を学び、出勤先の学校を選択する。
◆「中間報告会」…それまでの各人の現場の活動や反省点、その改善策について全体で報告し合い、討論する。
◆「期末報告会」…半期の活動について、全体に報告し討論したりして、総括する。

１．３　ＴＡ活動の際の服装や必要な持ち物は？

現場に行くと、ＴＡは、「ＴＡ」とは呼ばれません。生徒からも教員からも、「先生」と呼ばれます。<u>つまり、中身も外見も「先生」としてふさわしいものが強く求められます</u>。

現場では、「別にいいじゃん」が、通用しません。一人のマナー違反が、<u>大学全体の行動</u>として解釈されます。

あなたのちょっとした甘えた行動で、「あなたの大学の学生さんは、今後、受け入れたくありません」 と言われてしまったら…。関係のない後輩や、他の学生の活動の場を奪ってしまうことになりかねません。それを考えて行動しましょう。

・服装・容儀のチェックリスト

□スーツ（学校で、ジャージに着替える場合もあるので、事前に実習校に確認しておきましょう）

□白のインナー（ワイシャツ・ブラウス。第一ボタンも止める）

□男性は、ネクタイ着用

□女性は、スカートの丈にも気をつける

□黒髪（茶髪・パーマ・髭・ピアスは不可）

□化粧は華美にならず、最低限にとどめる

□強い化粧品（香水）のにおいも厳禁

□ブローチ、イヤリング、長爪、マニキュアも、ＴＡとしてはふさわしくありません

実習校との事前打ち合わせでは、本当にやる気がある人物かどうか服装や挨拶で判断されます。

服装については、その人の職務に対する姿勢が現れます。子どもを諭す立場の教員が、授業にふさわしくない外観ではたしてよいものかを考えてみましょう。ＴＰＯに合った服装を適切に選択する癖は、教員に限らず、これから社会人を目指すにあたって、大事なことの一つです。今から、身につけておきましょう。言い換えると、ＴＰＯに応じた服装のマナーについて、現場の学習、社会人用語で言うと、ＯＪＴを通して学びましょう。

・持ち物のチェックリスト

□筆記用具

□印鑑（出勤簿に、毎回、押印）

□上履き（スリッパ類は不可）

□メモ帳（ポケットサイズで、すぐに必要事項はメモ）

□ジャージ（小学校の場合、ジャージが多い）

□経費（交通費や食費、その他、ＴＡ活動にかかる費用は、原則本人負担）

１．４　ＴＡ実習校はどんなところ？

※所属や学年は２０１１年度時のものです。

実習先の学校はどのような学校でしょうか。先輩達が大正大学の実習校を紹介します。ぜひ参考にしてみてください。

北区立谷端小学校

谷端小学校は１学年１クラスと少人数の学校です。そのためか、先生方と児童たちのふれあいが多く、強い信頼関係が築かれているように思います。児童たちはとても明るく元気で、授業中のアドバイスなども素直に聞いてくれます。

人文学科日本語日本文学コース
２年　尾形美海

豊島区立西巣鴨小学校

西巣鴨小学校は、学級数が９つしかない小規模な学校です。そのうちの１つは特別支援学級であり、障がいを持った児童が在籍しています。全校生徒数が少ない分、ほとんどの教員が、担任していない学年の児童に対してでも親密に接することができているように見受けられます。それと同時に、教員同士のコミュニケーションによる連携もうまくとれており、夏期休業中の水泳指導では、教員達のチームワークがみられました。

朝の登校場面では、昇降口に校長先生が立って児童達にあいさつをする場面が見られたり、学校全体が児童や教職員達の活気で溢れています。

人間学部人間科学科教育人間学教育人間学コース３年　時田さおり

豊島区立仰高小学校

仰向小学校は、非常に明るい学校です。低学年のクラスに入るのですが、明るく、積極的に挨拶をしてくれ、素直で元気な子どもが非常に多いです。ただ、元気があるのはいいのですが、授業中も落ち着きのない子どもが目立ちます。しかし、低学年でなかなか授業に慣れないので、集中力が持たないようです。

先生たちも、気軽に声をかけてくださるので、相談しやすいです。

人間学部人間科学科教育人間学専攻教育人間学コース　３年
鈴村知絵

豊島区立朝日小学校

朝日小学校は、児童はとても元気がよく、挨拶もきちんと出来ています。また、勉強も熱心に取り組む。図書室も多くの生徒が利用しています。児童と先生の関係は良いです。

学校は、ＴＡに対して、服装・態度・言葉遣いなど厳しく接します。朝日小学校は、何に対しても熱心に取り組む学校です。

人間学部人間科学科教育人間学専攻教育人間学コース　２年　当間由衣

北区立滝野川第二中学校

滝野川第二小学校は、大正大学のすぐ近くにある北区の小学校です。

滝二小には元気な児童が多く、チャイムが鳴ると校庭へ遊びにいきます。僕たち学生も気軽に遊ぶことができ、一緒に楽しめます。ただ、高学年になると言葉遣いや態度が悪くなる児童が増え、下級生に暴言やいじわるをする児童もいるので注意が必要です。

また、滝二小には特別支援学級があり、ＬＤやＡＤＨＤの児童が在籍しています。担当の先生から接し方を教わることはできます。

人間学部人間科学科教育人間学専攻
教育人間学コース　３年　鈴木順也

豊島区立清和小学校

私が活動を行っている清和小学校は、挨拶が自慢な小学校だと思います。

朝の登校の時間には元気な挨拶が響き渡ります。また、近隣の大塚聾学校との交流も盛んだったり、プール開きの時期にはヤゴの救出大作戦などのイベントも盛んです。

人間学部人間科学科教育人間専攻
教育人間学コース
３年 飯田千夏

練馬区立向山小学校

向山小学校は教育方針として、やりぬく子、思いやりのある子、よく考える子を目標とし指導しています。皆が明るく、無邪気で、先生が指示する前に自分たちが何をすべきか考え行動する力が十分に備わっており、周りの子を心配する気配りも出来ていました。向山小学校の児童たちは他人を思いやることが出来る優しい児童だと感じます。

人間学部教育人間学科
１年富樫智貴

豊島区立西巣鴨中学校

西巣鴨中学校は特別支援学級での活動になりますが、このことについては心配することはないと思います。生徒には障がいを持つ子がいますが、むしろ私たちと積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれます。また教育の現場を知るという意味でやりがいのある学校だと思います。先生との距離が一番近い学校であると思うため、授業への参加をより多く経験でき、なおかつ困ったことや疑問に思ったことに対してアドバイスをくれたり、現在の学校での情報を話してくれたりもします。

人間学部教育人間学科
１年瀬上知宏

１．５　さぁいよいよ活動開始！その前にＴＡ活動を行う時の心構えは？

１）どちらのＴＡが良いでしょう？

Ａ：「きてくれてありがとう！」と、先生や生徒さんに言ってもらえるＴＡ
Ｂ：「あんまりきてほしくないな」と、言われるＴＡ

Ａ：「そのことが、本当に子どものためになっているか？」を問えるＴＡ
Ｂ：それが問えないで、独りよがりに行動したり、自己満足したりするＴＡ

⇒この２つは、ＴＡをするにあたって、忘れてはならない、もっとも大事な点です。これまで述べたこと、これから述べることは、実は全てこの２つに集約されると言っても過言ではありません。当たり前のことのように思うかもしれませんが、実践するのには、実は、かなりの意識や努力が求められます。

２）ＴＡ活動に必要な書類・手続き

（１）出勤日、出勤する学校、担当する教室が決まったら、「ボランティア登録カード」にそれらを記入して、２号館４階の閲覧室（助手さん、副手さん）に提出。

↓

（２）「出勤簿」と「報告書」を代わりに受け取る。

↓

（３）初出勤日に、「出勤簿」を、副校長先生に提出。

↓

（４）出勤するたびに、印鑑を持参し、出勤簿に捺印。副校長先生ないし校長先生に検印してもらう。

↓

（５）ＴＡ活動後、「報告書」に、活動内容を記録。

↓

（６）「報告書」を閲覧室に提出。代わりに新しい報告書を受け取り、以降、出勤ごとに記録し、提出。

↓

（７）ＴＡ活動最終日に、「出勤簿」を、副校長先生から受け取り、閲覧室に提出。

注：報告書と、自分の捺印・（副）校長先生検印済みの出勤簿がそろって、はじめて、出席としてカウントされます。（副）校長先生の検印のない出勤簿は、認められませんので、必ず、少なくとも最終日には、検印を押してもらって下さい。

３）現場での注意事項

□所属する大学の代表、社会人という意識で参加すること
□学校の生徒、先生を見かけたら、挨拶を元気よくすること
□言葉遣いに注意すること、軽はずみな言動をしないこと
　－ 冬場は、コートを脱いで教室には入ること
　－ 学校に入ったら無駄な私語は慎む（トイレ、更衣室、控室も同様）
　－ 活動中、携帯電話の電源は切ること
□時間厳守（遅刻しない、無断欠勤、ドタキャンをしない）
□茶髪、ピアス、派手な化粧、香水に注意。清潔で誠実さを示す服装をすること

□各校のルールや指示に従うこと（学校により方針が異なるものもある）
□担任の先生のやり方に合わせた指導をすること
　－ 例えば、数学の授業で、別のやり方を知っていても、それを生徒に教えるのではなく、先生のやり方を教えること
　－ 先生のやり方について、面と向かって批判をしないこと
□「ほうれんそう」: 自分のＴＡ活動について、気付いたことは、担当の先生に報告、連絡、相談すること

□プライバシーの尊重（守秘義務）
□自分の思いだけで、児童・生徒・保護者と連絡は取らない。必要な時は個人で解決せずに、担任に相談すること。個人情報に関わります
□生徒から申し出があったとしても不必要な携帯電話番号やメールアドレスの交換はやめましょう。思わぬ誤解が生じます。
□セクシャルハラスメントを働かないよう注意すること

□メールのマナーを守ること
　- 自分の氏名、所属、学籍番号を必ず件名に明記。その他、下記の例を参照。

EX.
　件名：大正太郎　教育人間学科　0011111
　本文：
　　〇〇先生

　　日頃より、お世話になっております。大正大学の学生でＴＡとして〇年〇組にて、〇曜日に活動させていただいております、大正太郎と申します。

　　〇月〇日〇曜日に出勤予定ですが、〇〇という理由から、お休みさせていただきた

いのですが、よろしいでしょうか。

ご迷惑をおかけし申し訳ございませんが、どうか宜しくお願い申し上げます。

大正大学　教育人間学科　〇年
大正太郎

マナーの不十分さは自分１人だけにとどまらず、これからのTA活動を希望するあなたの学生の後輩にも関わることになるかもしれないことに留意しましょう。

４）グループ学習について

□合同で討論するチームをつくろう

・同じ学校に出勤する人たち同士でグループをつくろう
　- 多いところは複数のグループに分かれること
・空き時間を利用して、週に１回程度（５月中は毎週、６月以降は、２週間に少なくとも１回)、グループで振り返りを実施すること。その様子は、ノートに記録しておくこと（報告会やレポート作成の際に利用します)。
・連絡先を互いに交換すること
・リーダーや書記係り等の役割を決めること
・できるだけ先輩もグループに入り、アドバイスやフォローをお願いします

□方法

・出勤日が決まったら、いつグループで集まるか決めよう（週に１回が目安）
・場所は、閲覧室や空き教室を利用すること
　- 情報が漏れる場所ではやらないこと（生徒の個人名を出すことには要注意）
・下記の点についてチーム討論
　- 反省点、課題、困ったことを報告しあう（適宜、報告書等の記録物を利用する）
　- それらをどう改善し（ようとし)、どうなったか
　- うまくいった点や、うまくいくようどう工夫したか
　- それらについて周囲は質問し、アドバイス等をしていく

- 次の会以降は、前回どういう議論が出て、どういうアドバイスや解決策・改善策を出し合ったか、それらをふまえて、どうその後活動を工夫し、どうだったかを、議論していく

・集まって議論した内容は、専用のノート（大学ノートで良い）に記録しておくこと
- どんな議論が出たか、どういう課題が残ったか、どういう疑問点が出されたか記録
- それらの内容について、中間・最終報告会で報告する
- ノートは閲覧室に提出・保管してもらう

・毎回、書記、司会者を決めること（毎回交代してもよい）

２．報告書はこう書こう

２．１　報告書には、なにをどう書けばいいの？

報告書は、「自分のＴＡ活動を記録・省察し日々改善していくための“道具”」です。

記入する項目は、「業務内容」、「プロセスコード」、「連絡事項」、「前回の課題・反省点」「課題・反省点を踏まえての今回の目標」、「目標の到達・実施具合」、「教員が何を・なぜ・どのように工夫していたか（真似したい点、見習いたい点）」、「今回の課題・反省点」、「今回の収穫 or 上手くいった点」、「その他」です。なお、本章の最後に書式を載せています。１枚目が主に小学校用で、２枚目が巣鴨北中学校用です。

下記に、報告書を書く際の注意事項を記載しました。

１）報告書の心得

・単位のため、書かなければいけないから書くものという意識を持つよりも、あくまで、学習やより良い実践に改善していくための“道具”という意識で書いていくこと

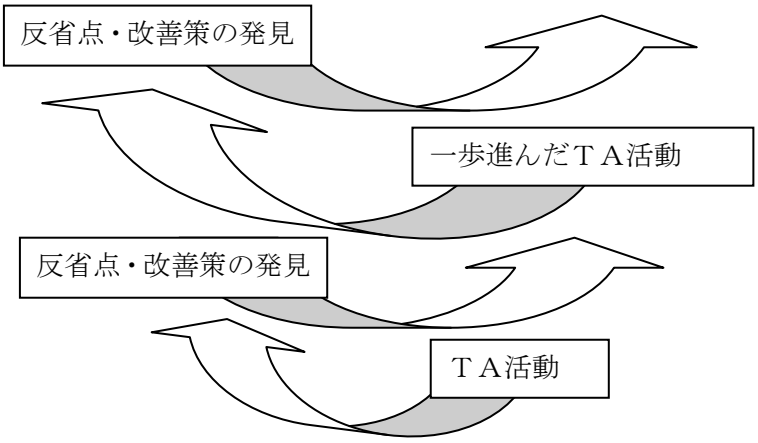
・人間は三歩歩けば忘れるもの。後々、レポート作成や議論の際の資料にもなる。

・自分の行動を振り返り、反省点（課題）を「見つける」。反省点は、自分の行動や周囲の反応に敏感になり、それらを対象化し考えることで見いだせるものである。スルーしてしまっているものはないか等、問うていくこと。また上手くいった点も冷静に振り返ること（なぜ今回は上手くいったのかを、分析していくこと）。

２）省察と実践のサイクル

その日、ＴＡ活動をしたら、報告書を書きながら、自分の活動について反省点を見つけ、改善方法を考える。次のＴＡ活動日は、報告書の内容を今一度振り返りつつ、前回の課題を改善した実践を心掛ける。そうして、徐々に良い活動にしていく。

もちろん、現場は複雑で、こう単純にうまく進まないことも多いだろう。しかし、向上心をもって、日々、実践し改善していくスパイラルを構築することが、もっとも重要なことである。



図．省察と実践のサイクル

３）悪い例
・具体性に乏しい
・漠然とした表現
　ＥＸ．　生徒が頑張っていたからよかった　×
・自己肯定が中心で課題についての記述がない（もちろん、良かった点、うまく言った点も積極的に書こう。自信もつけていこう）

４）報告書で書く内容
（１）活動（業務）内容
・どういう授業の内容だったか？
・自分はその中でどういう活動を実施したか？
・生徒はどういう様子だったか？（自分はどう関わったか？）
・課題や反省点は？

（２）前回の課題・反省点
・前回、どういった課題や反省点があげられていたか？

（３）２を踏まえての今回の目標（具体的にどういう行動や工夫をするか？）
・その日の活動が始まる前に書くこと
・その日、目標をもって活動するためにかくもの
・容易に可能できる目標は立てない。実現が無理な目標も立てない。「一歩ジャンプした」目標を！

（４）目標の到達・実施具合
・立てた目標をどういうタイミングでどのように達成しようとしたか？
・どれくらい到達できたか、或いはできなかったか？
・なぜ達成できたか、なぜ達成できなかったか？

（５）教員が何を・なぜ・どのように工夫していたか？真似したい、見習いたい点は？
　TA に行くことの意味は、間近でプロの実践を、ある意味で「盗みに」行く意味もある。先生の実践は、見本となる点が多いはず。それにいかに気付けるかも良いＴＡ、教員にとって必要な資質である。
　これを、「観察・模倣」と言う。優れた実践家は、オリジナルな技術や知識を開発することに長けているだけでなく、良い実践をよく観察し、模倣する達人でもある。

・先生のやり方で盗めるところを積極的に真似ていこう

・全ての状況で真似てうまくいくとは限らないが、まずは、真似ることも大事
・真似ようとすれば、先生のやり方にも自然に目が向くようになるはず。
・真似たうえで、状況に応じて、それを自分なりに応用、創造的に発展させられればさらによい

（６）今回の課題・反省点（具体的なエピソードを踏まえて）及び、次回までに必要な取り組み（事後学習）
・今回の活動の課題や反省点は何か。できるだけ具体的に記入すること
・予習・復習、褒め方、叱り方、教え方などの文献学習等、次回の活動までにやっておくべきことは何か

（７）プロセスレコード
書き方は、文章で説明的に記述していくパターンと、やりとり（会話、身体的動作）を中心に記述するパターンとがある。プロセスレコードは、もとは看護学生の病院での実習で使用されているものであり、後者のパターンが採用されており、基本的には、後者をすすめる。いずれも、後から他人が見て、具体的な場面が思い起こせるような詳細なやりとりの記述の仕方を心がける。振り返る中で、新たな気づきが得られるとよい。

子供の言動・つまづき	言動の解釈	自身の対応	分析・考察
①体育の時間、整列すべき時に、列から外れてしまう男子生徒Ａ君。	①みんな列に入っているから、Ａ君にも入ってもらわないと。	①「列に入ろう」と声をかけた。	①先ほどまで身体を動かしていたので、落ち着かないのだろうか。
②「いやだ！」と身体を左右に振りながら拒否。	②言うこと聞いてくれない。困ったな。	②「みんな整列しているよ」	②私の表情が硬く強引だったかもしれない。この時は、もう少し表情を和らげるべきだったか。
③不満そうな顔をして無言。	②どうしたらよいだろう。悩ましい。指示するより、自分で考えてもらった方が良いのではないか。	②目線を合わせて「今は、何する時間だろ？」	③・・・
④・・・	④・・・	④・・・	

（８）その他（ウラ面のメモ欄）

・気付いたこと、枠内に書ききれなかったことなどを書く。書式は自分で作成してよい。

２．２　報告書がなかなか書けない…（先輩からのアドバイス！）

○自分が「へぇ」と気づきを得た点や、問題とまではいかないが、気になったエピソードを記録しましょう。それに対して自分の思ったことを書きましょう。

○活動後、自分がその時どうしてそう行動し、なぜそう思ったのか、先生のやり方をマネしよう、よくするためにはどうすればよいのか。こういったことを、振り返ることで、発見につながります。

○先生のやっていることはそのままマネできないことが多い…。先生の行動の中で、「へぇー」って思ったことを、ＴＡの立場ならば、どうすべきかを考えながら書くとよいと思います。

○何も出来なくて書けなかったら、自分はどうするべきだったのか、そのために自分は何を勉強すべきなのかを書きましょう。

○報告書とは別に、自分のノートにも記録するようにしています。自分の書きたい方法で振り返りました。

○１年の時は、本当にスカスカでした。２年になって“テーマ・目標”を持って過ごしてからは、ひとつひとつ振り返ることができ書けるようになりました。とにかくひとつでも、“テーマ・目標”を持ってやることが大事！！

【小学校用の報告書】

( )学 校 TA活動 報告書			
学生氏名 〈 〉			
・活動日　　年　　月　　日　　：　　～　　：　　.			
1. 活 動 内 容			
・　時間目(　　：　　～　　：　　) クラス・担当教員 (　　) 教科・内容 (　　)			
・この時間の出来事、自分の取り組み、授業の内容、子どもの様子			
・　時間目(　　：　　～　　：　　) クラス・担当教員 (　　) 教科・内容 (　　)			
・この時間の出来事、自分の取り組み、授業の内容、子どもの様子			
・　時間目(　　：　　～　　：　　) クラス・担当教員 (　　) 教科・内容 (　　)			
・この時間の出来事、自分の取り組み、授業の内容、子どもの様子			
・　時間目(　　：　　～　　：　　) クラス・担当教員 (　　) 教科・内容 (　　)			
・この時間の出来事、自分の取り組み、授業の内容、子どもの様子			
2. 前回の課題・反省点		3. 左記2を踏まえての今回の目標(具体的に)	
4. 今回の課題・反省点(具体的な出来事を踏まえて)		5. 目標の到達具合(理由・根拠を必ず挙げる)	
6. 教員の工夫点の考察と見習える点(具体的に)		7. 今回の収穫・上手くいった点(理由・根拠を必ず示す)	
8. 悩み，疑問		9. 嬉しかった点，良かった点	
10. 特に省察すべき具体的場面の記録			
・子どもの言動・つまづき	・言動等の解釈	・自身の応対	・分析・考察
連絡事項			

【中学校、高校用の報告書】

（　　）学校　TA活動　報告書		
		氏名
年　　月　　日　　時限		教科名
担当クラス　　年　　組		担当教員名　　先生
1. 業務内容（授業全体の流れ及び自分が介入した点等）		
2. 前回の課題・反省点		
3. 2を踏まえての今回の目標（具体的にどういう行動や工夫をするか）		
4. 目標の到達・実施具合（到達できても，できなくとも，その理由・根拠を必ず挙げること）		
5. 教員が何を・なぜ・どのように工夫していたか。また，真似したい，見習いたい点（TA活動や自分が授業をする際など）		
6. 今回の課題・反省点（具体的なエピソードを踏まえて）及び，次回までに必要な取り組み（事後学習）		
7. 今回の収穫or上手くいった点（なぜ収穫といえるのか，なぜ上手くいったと思うか，理由・根拠を必ず述べること）		
特に省察すべき具体的場面の記録（書ききれない場合は裏面を利用すること）		
子供の言動・つまづき	言動等の解釈	自身の対応	分析・考察
連絡事項		

３．先輩たちの声

３．１　ＴＡ活動学生１週間生活図＋アドバイス

※所属や役職は２０１２年度のものです。

大学の授業・バイトなどとの兼ね合いを考えて、無理のないスケジュールを立てることが大事です。下記に、長期に、ＴＡ活動を続けている先輩たちからのアドバイスを紹介します。参考にしてみて下さい。

・１年生の時間割の例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	ＴＡ		東と西の思想史		
2	ＴＡ			パーソナリティの心理学	
3	いのちの倫理	科学とオカルトの歴史	諸外国	基礎ゼミ	
4	ＮＣＣ	バイト	ワード	バイト	
5	人間探求	バイト	日本国憲法	バイト	

アドバイス

ＴＡ活動は月曜日に入れています。アルバイトは火曜日、木曜日に地元の個別指導塾で講師をしています。金曜日は大学の授業の復習や課題をしたり、資格の勉強をする日にしています。スケジュールを立てる上で気をつけることは自分が出来る範囲を考えることです。春学期を通して、詰め込みすぎて成績を下げてしまったら、ダメだと痛感したので、秋学期は少しゆとりあるスケジュールにしました。

（教育人間学専攻　１年　Ａ・Ｓ）

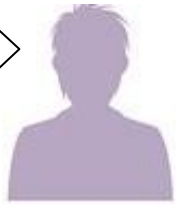
・２年生の時間割の例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1			こころの哲学	キャリアゼミ	生活のなかの宗教	教育基礎論
2	東洋文化史		ＴＡ	現代社会の倫理を考える	諸外国	
3	西洋史概説	自然地理学Ｂ	経済学概論	西洋史概説	政治学概論	
4	東洋史概説	文化から見る世界史		東洋史概説		
5	社会科教育法Ⅱ	人間探求				
6		社会・公民科教育法Ⅱ				

アドバイス

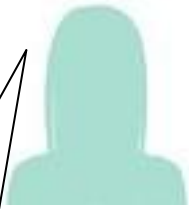
授業の空いた時間を有効につかってＴＡに入れば無駄がないし、４年間続けていれば、就職の時に学校で頑張ったことは？と聞かれても自信をもって答えられる。サークルに入ってない人やバイトを頑張る人にはとてもよい。継続は力なり。それと、自分なりの努力した点工夫した点も言えればさらによい。大正大学での利点を有効に利用しておきたい。

（教育人間学専攻　２年　Ｋ・Ｍ）



・３年生の時間割の例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1			こころの哲学	ＴＡ		バイト
2			専門ゼミ	ＴＡ		バイト
3	いのちの倫理		伝統礼法	ＴＡ	宗教と教育の関係	バイト
4	バイト			ＴＡ	バイト	教育実習



アドバイス

３年になって小学校に行って、やっぱり１日ＴＡ活動をしたくて、木曜日はあえて空けました。なぜ、１日いることにこだわったかというと、１年から２年までは忙しく、１コマ（１時間）だけや、午前中だけなど１日いることができませんでした。1 日を通さないと、生徒の一面がわからないと、1 コマだけやっている時に感じました。「この子ってこんなに明るい子なんだ。」取っ付きにくいけど、休み時間は、すごく話してくれるとか、それが一番びっくりした。小学校にいるなら、ちゃんと子どもの特徴、子どものことをよく知りたいと思って１日いることにしました。

１年・２年の時は、授業とバイトとＴＡで休みがゼロでした。休みの日を作ろうと思ったのでこの時間割にしました。2 年の時は授業が１限から６限まで、土日はバイトで休みがなかったので３年になり火曜日に休みの日を作りました。

北中（巣鴨北中学校）だったら近いし、１コマだけでも入れる場合があるので、大学の時間割と、中学校の時間割を把握して入れる時間を調節していました。放課後の個別指導は生徒と一対一だけど、大学が午前中空いていたり、３・４限空いている人は個別指導をやってみてはどうでしょうか。

（教育人間学専攻　３年　Ａ・Ｏ）

３．２　ＴＡ活動をやってみての先輩の感想

※所属や学年は２０１２年度時のものです。

○初めてのＴＡ活動に参加して

約３ヶ月間、ＴＡとして小学校でした経験はとても貴重なものになりました。実際に教育の現場に行かせていただくということ、子どもと関係を築くということ、１人の大学生がＴＡとして学校に存在するということ、色々なことを覚悟したつもりで臨んだＴＡ活動でした。しかし、行ってすぐにわかったことは、自分の覚悟の甘さでした。現場の実状の厳しさ、児童とコミュニケーションをとる難しさ、なにより大学生である自分が、学校に行く間「先生」となる責任の重さ、私が思い描き、考えていたものとの差ははかりしれませんでした。私はそのギャップに苦しみました。しかし、苦しんだからこそ知ったこともあります。先生も１人の人間であることに違いはなく色々なことを乗り越え、闘っているということ、子どもたちの成長を実感できる楽しさと嬉しさ、今の私でも努力することによって子どもと関わり、できることがあるということです。まだまだ始めて３ヶ月。知らないこともたくさんあり、悩むこともたくさんあると思いますが、私は続けていこうと思います。この経験は教育を学ぶという面はもちろん、自分自身の成長にもつなげることができるからです。

人間学部教育人間学科　１年　大庭真梨子

○移動教室引率補助員を担当して

私は今まで小学校の移動教室の引率補助を４回やらせていただきました。移動教室の引率補助をやると普段のＴＡ活動とは違い、２４時間ＴＡ（先生）として生活しなければなりません。初めてのときも今も、変わらないのは、自分の指導力不足・知識不足・経験不足を感じることです。いくら大学の講義でたくさんの知識を蓄積しても、現場で対処できなければ意味がありません。将来本当に教員になったときに教師としてとるべき行動・指導ができるようになるには、日々の学習はもちろんこうした活動に参加することも本当に大切だと思います。ＴＡでは、困ったこと分からないことがたくさんあります。それは１人で解決しないで、先生達・学生同士の力を借りることで円滑に実習を送れるのです。

将来教員になりたい私にとって本当に貴重な体験でした。普段の学校生活とは違い、２４時間学校現場を実際に感じ、たくさんの問題や感動する場面に立ち会えました。先生方と一緒にお風呂に入り、たくさんお話したことも、保護者の方とお話できたことも大切な体験です。一人一人の子どもの笑顔が私の元気の源です。子どもがいるからこそ、私はこの素晴らしい時間を過ごすことができました。

人間学部人間科学科教育人間学専攻　３年　長島美里

３．３　先輩からＴＡ活動のアドバイス

※所属や学年は２０１２年時のものです。

ＴＡって楽しい！！

ＴＡって自分のやる気次第！！楽しいって思えたら自分の勝ち！！てか、その人は教師に向いていると思う。ＴＡって楽しいよ。　人によってはいろいろな学校（小学校・中学校・特別支援学級など）に行った方がいいという人もいるけど、私は１つの学校に長く行くことの方がいいと思います。先生方とも子どもたちとも信頼関係が築けるからです。ＴＡができて、大正大学にきて良かった。１回１回、“テーマ・目標”を持って考えながらＴＡ活動をすることが一番重要です。自分が教員になったら、使おうと思うことがたくさん発見できて楽しい。

小学校　ＴＡ歴３年

予習していく！！

“絶対にいっぱい予習していくこと”これは一番私が強調して言いたいことです。ギリギリに行って予習もなしに授業に入ると自分も対応できるか不安になるし、先生のやり方も違います。先生とのやり方が違うと生徒がとても混乱するから、指導法を合わせるためにも余裕を持って行くことにしましょう。

先生の求めていることを察して行動することが大切です。それを自分の中で考えると指示されなくても動けるようになります。先生をよく見て指導の仕方を自分で考えてみて下さい。

中学校・小学校　ＴＡ歴３年

真剣に！！

ＴＡ活動は、これから活躍しようとしている小学校・中学校・高等学校教諭の免許取得希望者が、現場体験を行い、その体験をこれからの教育活動に活かすことを目指している活動です。なので、ＴＡ活動は非常に重要です。

現場の大切な時間を利用していることを忘れず、真剣に取り組んで下さい。

中学校・小学校　ＴＡ歴３年

子どもの笑顔！！

笑顔でお礼を言われた時や、授業で話した児童たちが私を見かけ「先生、先生」と寄ってきてくれたとき、これからもＴＡとして頑張っていきたいと思いました。子供の笑顔がＴＡ活動を頑張るエネルギーになります。

小学校　ＴＡ歴１年

４．ＴＡ活動中の心得

～こんな時にはこんな行動を～

これから述べるアドバイスは、大正大学生によるＴＡ活動の体験談をまとめた『大正大学における教育連携事業報告書』や、ＴＡ活動中の２年生・３年生（２０１１年時）へのアンケート調査･面接調査をもとにしています。ぜひ参考にしてみて下さい。また、次章の現場の先生からのアドバイスも、あわせて参考にして下さい。

４．１　叱り方がわからないのですがどうするの？〈Ｑ＆Ａ集〉

～小学校～

Ｑ１：ＴＡが注意しても担任の先生のようにうまくいかない…

Ａ１：ＴＡとは言え、教師と同じ立場という心づもりで、いざという時には叱らなければいけません。中途半端な対応をせず、明確な態度で行動して下さい。

Ｑ２：感情的にならずに叱るには？

Ａ２：必要以上に感情的なのはよくありませんが、注意する時は、曖昧ではむしろいけません。はっきり言わないと児童の為になりませんので、多少厳しくてもよいので、はっきりと叱るようにしましょう。「演じる」姿勢も大事かもしれません。ただし、単に叱るだけでなく、説明して何がよくないのか理解してもらうことも大切です。この時、どう説明すればよいか、判断する必要があります。

　時には、大きな声で叱ることが必要かもしれません。ただ、毎回それでは児童は慣れてしまいます。そこで、やはり児童の行動・発言を注意深く観察し、落ち着いて状況を整理して毅然とした態度で接する必要があります。ＴＡといえども、児童と教師という関係が構築・維持できるよう頑張りましょう。

Ｑ３：叱り方が一本調子になってしまう…

Ａ３：先生の対応を観察し参考にしたり、直接先生に尋ねてみたりして自分の対応レパートリーを増やしていきましょう。

Ｑ４：素直に聞いてくれる児童だけじゃない！無視する生徒にはどう対応すべき？

Ａ４：ただ注意するのではなく、説明をしてみたり、言い方を変えて指導することが大切です。また、問題が起こってから注意するだけでなく、起こらないように指導することも大事です。

～中学校～

Ｑ１：授業中に熟睡している生徒がいる…

Ａ１：すぐに注意するだけではなく、机間巡視をしながら、その生徒の近くまで行き様子を見たり、授業が終わった後に生徒に話を聞いてみたりしてみてはどうでしょうか。どういう経緯でそうした行動をとっているのか知ることも大事。

Ｑ２：厳しい注意がうまくできません…

Ａ２：しっかり注意し、自分で善悪を判断する力をつけさせることが中学生には大切です。特に危険だと判断したら、躊躇せずに注意しなければいけません。生徒に注意する時、目標として「理由」をつけて注意してみるとどうでしょうか。注意された原因を、生徒自身にも尋ね考えさせることがとても大切です。

Ｑ３：授業中の注意は、授業妨害？

Ａ３：私語をしている生徒よりも、そして授業をしている先生よりも、大きな声での注意は、授業後妨害になるので、原則いけません。私語をしている生徒に、あえて授業に関する内容の質問をして、授業に参加させることや近くに立っておくのもひとつの方法です。また、私語をしないようになるべく早く対処することも大事。

４．２　学習指導はどうするの？〈Ｑ＆Ａ集〉

～小学校～

Ｑ１：自分の専科ではない教科を教えることになっちゃった…

Ａ１：全部教えようというのではなく、児童の後押しをするつもりでやってみるのも手です。ただ、しっかり予習をすることがやはり大事です。学生同士で、模擬授業等もかねて予習をする方法もあると思います。

Ｑ２：１年生の時点でもうすでに能力の差が…戸惑っています…

Ａ２：どうしてもわからない生徒がいる場合は、丁寧な説明を心がけ、言葉だけではなく、メモ用紙を持ち歩き、図などを書いて実際にやってみせましょう。

～中学校～

Ｑ１：生徒の集中力が続かない

Ａ１：生徒と目線を合わせるように、しゃがんで指導することを常に心がけてみましょう。それだけでも、授業に集中させることにつながると思います。そして、生徒ひとりひとりに合わせて指導法を変えることも心がけよう。

Ｑ２：中学校の勉強を教える側の自分が理解できなかった…

Ａ２：やはり、日頃から十分な予習をすることが大事です。自分自身が理解していなければ、自信をもって指導することもできません。それだけでなく、生徒ひとりひとりのレベルを把握し、分かりやすく教えるにはどうしたらよいか、自分自身で改めて勉強する必要があります。指導内容や範囲について、可能ならば、事前に担当の先生と相談することも大事です。毎回の単元の確認ができ、授業中での戸惑いも少なくなります。

Ｑ３：誰に対しても同じような指導になってしまいます…

Ａ３：教える自分の立場だけでなく、教わる生徒の状態（生徒の実力ややる気、

性格等）もひとりひとり考慮した上で指導しなければなりません。その科目が苦手な生徒には、メモ帳を黒板代わりにして、実際の問題を解きながら教えるのも手です。

Ｑ４：生徒のやる気を引き出すには？

Ａ４：教える側のＴＡ自身が教科を楽しみながら生徒に学習指導すれば、ついてきてくれる生徒も増えます。やればできるという子どもの能力を引き出してあげることも重要です。そのためには、問題を解かせる時には、ＴＡが一方的に教えるのではなく、生徒自身に作業させ、自ら課題に気付かせることが大事。その課題が少しでもできたら、ほめてあげるようにしましょう。

　その時、ＴＡはあくまでもヒントを与えるだけで、直接答えを教えてはいけません。それらを通して、各生徒の学習状況を把握し、つまずいている箇所を確認して場合によっては初めから丁寧に教えてあげて下さい。

Ｑ５：なにもせず質問もない生徒がいます…

Ａ５：一歩遅れたことから、どんどん置いていかれ、諦めてしまう生徒もいます。ＴＡは、生徒ひとりひとりに意識を向けられる時間が多いはずで、こうした、先生が見えていない（かもしれない）部分に気付くことができる立場にあります。

　また、そうした生徒には、生徒と同じ目線で、自分から笑顔で話しかけることを心がけてもみて下さい。コミュニケーションをとることで、なにもしない理由や原因がわかるかもしれません。それをヒントに、対応を考えていきましょう。

４．３　児童・生徒とどうやってコミュニケーションはとるの？〈Ｑ＆Ａ集〉

～小学校～

Ｑ１：授業中でも友達のように接してこられて困っています

Ａ１：児童と仲良くなることはとても大切ですが、その中でもＴＡと児童という線引きははっきりさせておいた方がよいです。児童の前では、先生であるという自覚を持ちましょう。もしも、「先生」と呼んでくれなかったり呼び捨てだったりする場合は、呼び捨てだけは許さず、言い直すように強く求め、私が先生と同じ立場の人間であるということを理解させるように努めましょう。どうしても「先生」と呼んでくれない場合は、反応しないこともひとつの方法です。

　しかし他方、先生や親といった大人ではなく、年の近いＴＡだからこそ、できる話や、ＴＡならではの関係性が生きる場面も多くあります。その見極めが大切です。

Ｑ２：児童よりも上の立場に立って補助することができません…

Ａ２：自信をもって接しなければ、児童に不信感を与えてしまいます。そのためには、教える側として知識を積み、生徒に遠慮せずに関わる必要があります。

Ｑ３：ＴＡに数カ月行かなかったら、児童との距離が開いてしまいました…

Ａ３：児童達は、私たちが思うよりも様々な考えで行動するので、その場面に応じて対応していかなければなりません。細かい行動・発言も気にするようにして、徐々にまた関係を築いていきましょう。他にも、水泳教室や学習教室など、長期の休みにもＴＡが参加できる活動がある場合、できるだけ参加することが大事です。それいより、次の学期までに児童・生徒と交流する機会を確保できます。

～中学校～

Ｑ１：クラスの雰囲気に馴染むことができない生徒に声をかけることができません…

Ａ１：自分がこう話したいという感覚よりも、相手が話したいだろうなと思うような会話をすることを心がけることが大事にしましょう。そのために、やはり笑顔で話しかけ、その子の性格や興味関心を知っていきましょう。

Ｑ２：おしゃべりをしている生徒の意識を問題に向かせるには？

Ａ２：指導する時には、教える立場・教わる立場をしっかりと維持していく必要があるので、あまり慣れ慣れしく話さないことも必要です。ＴＡといえども教師であり、生徒の人格形成に与える影響が大きいことを自覚して指導しなければなりません。

Ｑ３：生徒に話しかけるには？

Ａ３：まずは生徒の名前を覚えましょう。そうすると、ＴＡが積極的に話しかけることができるきっかけになります。昼休みに話しをしてみるなど、情報を共有してみてはどうでしょうか？休み時間は、子どもとの貴重な交流の場です。そして、笑いを共有することで、信頼関係を築くことができます。時には、軽いフットワークも必要です。

Ｑ４：生徒に嫌われたくなくて、注意ができません…

Ａ４：繰り返し述べてきたように、必要なときはやはり、毅然とした態度で注意することが必要です。ですが、完全に先生と生徒という立場ではなく、先生と生徒の中間の立場にいる、というＴＡならではの立場を生かすことも大事です。ただし、学生としての側面を出し過ぎると、生徒との距離が近くなり過ぎてしまい、良好な関係がかえって築けなくなりますので注意も必要です。

Ｑ５：女生徒・反抗的な生徒への対応が怖くて不安です…

Ａ５：恐怖感をもっていても仕方がありません。怖いから行動しない、注意しないというのは理由になりません。

なめられないように先生として言動をするようにしましょう。

４．４　なにをどうしたらいいのかわからないのですが…？〈Ｑ＆Ａ集〉

Ｑ１：ただ教室の後ろで立ってるだけで、行動することが全くできません…

Ａ１：小さいことでも自分から積極的に動けば、コミュニケーションをとれる機会はとても増えます。すぐにできるのは机間巡視を積極的に行うことです。ただし、何も考えず、回っているだけでは意味がありません。授業の進行状況や先生の動きを踏まえた上で、ひとりひとりの生徒が、それぞれ何をやっているのか意識を向けて回りましょう。例えば、先生の話を聞くべき時に、陰で別のことをやっている生徒を見つけたら…？ほら、もうやることがでてきます。授業中だけでなく休み時間も、子どもたちとコミュニケーションを取る貴重な時間ですね。

Ｑ３：ＴＡ活動が不安でしょうがない…

Ａ３：不安の理由が何なのか分析しましょう。教える科目に自信がないことからくる不安なら、やはり予習が必要です。生徒の顔と名前を覚えていないことからくる不安なら，それらを意識的に覚える必要があります。名前を呼びながら声を積極的にかけていくことで，覚えやすくもなります。

　先輩・先生にも相談したりしながら、事前にできる準備はないか，考えしっかり準備していきましょう。

☆ＣＯＬＵＭＮ

みんなで考えよう！こんな時どうする？

小学校１年生クラスで、ＴＡ活動をしています。

授業中、先生がちょっと職員室にいくので「教室を見ていてね」と頼まれました。担任の先生がいなくなってすぐ、１人の児童がおしゃべりを始めちゃいました。とてもうるさくて、周りの児童の迷惑になっていると思って注意したら…他の児童もおしゃべりを始めちゃいました…。

あなたの考えを書いて、話し合ってみよう。

ＭＥＭＯ

５．現場の先生に聞く！！

～こんな時にはこんな行動を～

５．１　先生の紹介

※所属や役職は２０１１年時のものです。

　これから、現場の先生方からの貴重なアドバイスをご紹介します。まず、今回ご協力いただいた先生方を紹介します。

＜個に応じた、丁寧な指導！！＞

鎌原利幸先生
豊島区立西巣鴨中学校　特別支援学級　主幹

＜迷ったらＧＯ！！＞

稲木努先生
練馬区立向山小学校　主幹

＜とにかく子供の道しるべに！！＞

小澤俊介先生
豊島区立西巣鴨中学校　特別支援学級

＜子供が大好き！！＞

松村由佳先生
練馬区立向山小学校

５．２　現場の先生に聞く　～こんな時にはこんな行動を～

□松村由佳先生に聞く　～こんな時にはこんな行動を～

Ｑ：ＴＡ活動に行っていて、男子児童に体を触られたことがあります。私はやはり異性の児童にこれはいけないことだと思い注意をしましが、適当に流されてしましました。こういう時は、どう指導したら良いのですか？

Ａ：話を聞かせることがまず、難しいです。けれども、話を聞ける姿勢が作れたらまず、「あなたが大人になって同じことをすると、どういうことになるのか」や「そういう大人になったらどうなるか」ということをいろいろな場面で私は児童に考えさせています。自分はいいと思っていても、相手が少しでも嫌だなと感じたら、それはやってはいけないことだということを繰り返して言います。後、プライベートゾーンの話を４年生以上にはします。「首から上、脇だったり胸だったりおへそ周りだったり、そういうところは人間が生きていく上で大事なところだから、下着をつけたり、守ったりするところは、相手の許可なく触らないよ。」という話をします。どうしても話を聞かないと思った場合は、「あなたが、今やったことを、お家の人が見たらどう思うかな」「他の人が見てどう思うかな」など、客観的に指導しています。

Ｑ：学生でもあり、女性である私が怒っても迫力がないのか、なかなか言う事を聞いてくれません。男の担任の先生が怒鳴ると、児童は言う事を聞いているように思います。女性でも、どのように威厳を示せると考えていますか？

Ａ：女の人があんまり怒鳴るような指導をしてしまうと、やんちゃな子は面白がる傾向があると私は考えています。ですので、わざと声を低く話したり、しゃべり過ぎたりしない工夫をしています。先生によっていろいろなキャラクターがあっていいと思います。包容力のある指導ができるのが女性の良さでもあると感じます。

Ｑ：女性教諭が、男性教諭に接する際に気をつけなければいけないことはありますか？

Ａ：いろいろな方が働く職場なので、とても学生さんは気を使う場所だと思います。初めは緊張しても、質問したりしながら関係作りをしていけるといいと思います。

Ｑ：私は女子学生です。今、高学年のクラスを担当しているのですが、高学年になると男子児童の中に異性への興味が出てくる児童がいます。どこまでがスキンシップで、どこからがセクハラなのか境界線みたいなものはありますか？先生が、高学年の男子児童に接する際に、気をつけていることは何ですか？

Ａ：私は、スキンシップを異性の児童とはとりません。しかし、握手やハイタッチなどはします。私は、これ以上のス

キンシップはしません。やはり児童に、変に誤解させてしまったら児童が可哀想です。ですから、服装等にも気を付けます。例えば、薄い色の服や下着が透けるような服は、着ないようにします。体育のときに使うＴシャツの色も配慮をしています。余計な刺激は与えないようにするということです。もし、腕を組んできたら、「私は女の先生、あなたは男の子。今、あなたはお兄ちゃんになる時期だから、女の先生の体にそうやって触らないよ。」と、明るく言ったりしています。

Ｑ：低学年の担当をしていると、女性だからかとても甘えてくる児童が多くいます。甘え過ぎてしまう児童に対して、どう対応したら良いのでしょうか？先生が低学年の児童に接する際、気を付けていることはありますか？

Ａ：あまりにしつこいととても大変だと思います。私は、しつこくされないように動き回ります。その児童から離れてしまいます。ただし、なぜ甘えるのか原因がわかった上で対応は変えます。例えば、愛情不足でスキンシップを求めるのであれば、「じゃあ、１分間だけＡちゃんと仲良くするタイム」を作ります。「でも学校だから、Ａちゃんと１分しか仲良くできないよ。」と言いＡちゃんと仲良くするタイムとみんなと遊ぶ時間とを区切っています。ただし、本当に甘えなのであれば１対１にならないようにします。学習の時に、「先生来て、先生来て。」というふうになるのであれば、「何人もいるから、あなたはこれとこれを見たら次の子に行くからね。」と言い対応します。自分のことも大好きでいてくれているなってことが感じる事が出来れば、その児童は少しホッとするかもしれないですね。

Ｑ：今、高学年のクラスを担当しているのですが、男子児童に甘く見られているのか言う事を聞いてくれません。「私は怒ると怖い先生」という雰囲気をどう出していいのかわかりません。甘く見られないようにするための対策はありますか？

Ａ：絶対甘く見られる原因が１回でもあったはずです。「今、絶対許せないことしたからちょっと待ちなさい。」と本当に粘り強く指導していたら「このＴＡさんはちょっと違う」と児童は思ったはずです。指導すると決めた場面は、最後まで指導しないと自分自身で甘く見られる原因を作っています。注意は誰でもできます。「危ないからやめなさいとか、謝りなさい。」と注意した後、児童がちゃんと謝ったのか、教師は児童がやめるまで見ていたのか、そこが力のある先生とそうではない先生との違いではないかと思います。

Ｑ：感情的にならずに叱るには、どのような工夫をなされていますか？

Ａ：黙ります。まず１回黙ります。児童の目を見て黙る。児童は怒られることを理解しているので、先生が何を言うか、何か言ってきたらなんて言い返そうか自分を守るために必死です。なので、黙ってジーと目を見てどういうふうに

話をしようか私は考えます。そうしていると、だんだん児童も落ち着いてくる事が多いです。児童が自分自身で白状したら、もう指導の半分は終わりです。先生が話をしない方が、生活指導は進めやすいです。高学年になったら、あんまり個人の指導をみんなの前でしません。高学年は短く、低学年・中学年は割とあんまり真剣に言っても響かない場合の児童もいます。低学年の子は経験が少ないので、道徳の授業、ロールプイレイングなどの時間を取る事もあります。学年によって指導の仕方は変わると思います。

Q：ＴＡ活動を行っていると、素直にＴＡの言うことを聞いてくれる児童ばかりに出会う訳ではありません。無視する児童には、どう指導したらよろしいのですか？

Ａ：その児童にしつこく関わらないで、担任の先生に任せてもよいと思います。児童は、しつこいのは好きではありません。例えば、「あなたの行動はとても危ないから私は注意しましたが、あなたは聞いていませんでした。これは担任の先生に言っておきますから、後で先生と話しなさい。」と言いその場を離れます。「あなたは無視しているけれども、私は心配しているからという話をしましたよ。」と言い離れれば、「うるさいけど、俺のこと考えくれている。」と伝わることもあるかも知れません。伝えることは伝えて、担任や他の先生につなぐということもひとつの方法だと思います。

Q：授業中に熟睡している児童を、どう起こしたら良いのですか？

Ａ：私だったら、しばらく寝かせておきクラスの周りの子に「あの子寝ているね。」と言いしばらく様子を見ます。熟睡しているのは、授業がつまらないか、家で何かあったか、具合が悪いかのどれかだと思います。本当に怠慢で寝ていたら寝たふりです。しかし熟睡なら、絶対に身体とか心に何か課題があるはずです。なので、そこに目を向けないと大事なことを見落としてしまうことがあるので気を付けています。クラスで目覚まし体操をやったり、顔を洗わせたり、他の子を巻き込むけれど他の子もスッキリするようなことをやっています。児童は、遊びの部分がある大人が好きです。日頃から寝づらい状況作りを意識しています。「寝ちゃったのか、そうかじゃあ、寝ちゃった分みんなの勉強したのを取り戻すから、２０分休みに勉強やろう。」と言うとみんな「寝ちゃいけないんだ」と思うみたいです(笑)。

Q：授業中、児童に友達のように接してこられてしまうと、騒がしくなり他の児童にも迷惑をかけてしまっています。何かよい対応の仕方はありますか？

Ａ：ＴＡさんも、言葉を選んで使うことが大事です。例えば、「授業中なのでその言葉遣いで質問されても答えることができません。」と言えば丁寧になる子が増えるはずです。「授業中で使う言葉じゃないので、質問だったらきちんと聞

いてね。」と、丁寧な言葉を使うことが良いと思います。

Ｑ：児童に注意したことによって、嫌われてしまったらと思うと何も注意することができません。何かアドバイスを頂けないですか？

Ａ：嫌われてしまったらと思っている時点で、児童に気を使っていると思います。相手は、子どもです。なので、自分の半分しか生きてない子にそんな気を使っていたら先生になった時に苦労をすると思います。子どもの方が切り替えは早いので、普段から遊んだり声をかけたりする関係作りをし、指導した後にフォローが出来れば簡単に児童は離れていかないです。児童は、若い先生が大好きです。一緒に遊んでくれる人を求めているので、特別何かない限り気持ちが離れることはありません。簡単に嫌われたりしないので自信もってやって欲しいです！！

□稲木努先生に聞く　～こんな時にはこんな行動を～

Ｑ：ＴＡ活動でクラス環境を見ていると、クラスには権力を持った児童がいると感じました。その児童は、クラスの中心的な存在です。その権力を持った児童と、他の児童全員が平等なクラスになるために気をつけることはありますか？

Ａ：いろいろな子がいていいだろうと思う。権力を持っていると言うこと自体がおかしい。だから、機会に関しては平等にしてあげなければいけないと思います。中心的な存在になる子は、思いっきり中心的な存在として活躍できる場を与えている。人それぞれ個性があって、活躍していく子にはそういう場面を与えてあげるべき。どの子にもチャンスがあるなら、「やってみなさい。」と後押しします。迷っている子がいたら、背中を押してあげる。やる気のある子はどんどん活躍してもいいけど、他の子にも機会を平等に与えることが大事です。

Ｑ：ＴＡ活動で、小学校低学年の体育の補助員をしています。その時、鉄棒やマット運動が苦手な児童に対して手伝ってあげると、それに児童が甘えてしまいます。そのせいか、なかなか自分の力でできるようになりません。体育の授業で、先生が生徒に対して行う技術的補助で気をつけなければいけないことはありますか？

Ａ：授業中に甘えさせるのは違う。甘えがある体育なんか危ない。体育で一番気を付けるのは、安全ということです。なので、技術的な補助は大切ですが無理な技に挑戦させるのはダメなことです。技術的な補助で一番気を付けることは、その子にとって無理な技をやらせていないかということです。その子が、今できることよりも少しだけレベルの高いことに挑戦できる様な補助をしてあげることが大事だと思います。

Q：児童を叱るときに、稲木先生はどのような工夫をしていますか？

A：うまく叱れることは、先生に絶対になくてはならない技能のひとつだと思う。コツは、その子自身を否定せず、悪かったそのことを叱ってあげる。それは、ものすごく大事なことです。いきなり怒鳴るとかは、なるべくしない方がいい。悪いことをしている現場を見た時にはそうせざるをえない時もある。まず話を聞き、どこが悪いのかをしっかりと伝えて、今度同じようなことがあったらどうするのか考えさせる。これが叱る一連の流れだと思う。

Q：算数で丸つけをしている際、間違った答えがあるときに、どのように間違っている答えを活かしながら直させればいいのかわかりません。間違いを活かす指導方法で、稲木先生が行っていることはありますか？

A：これはコツがある。バツを赤でつけない方がいい。赤でバツは、否定されている気になります。私は、基本的に授業で「間違うっていうのは全く悪いことではない。」と子どもに毎回言っています。間違った答えを授業中発表して、冷やかしや否定する子がいたら本気で叱る。子どもが、授業中間違えたら赤鉛筆で違っているところに線を引いてあげる。丸は大きく、バツは小さく。

Q：勉強に対してやる気が感じられない児童（よく「やっても意味がないし」や課題をやる前から「分からない」という児童）に対し、稲木先生が行っている指導方法などはありますか？

A：その日だけで、その子の気持ちを変えるのは、なかなか難しい。できる・わかる喜びを経験させる。後は、最初からやる気のない子に理屈で言ってもダメ。だんだんとできた、分かったという経験を積んできたら、勉強をやる意味や勉強をすることで自分の選択肢が広がっていく事などを話してあげる。

Q：算数でも体育でも、基礎が出来ていないと進めない問題や技術があると思います。そういった場合、基礎まで戻って丁寧に教えるか、他の児童の能力に合わせることを優先するかどちらの方が良いと思いますか？

A：それはその時によりますね(笑)。もちろん基本的には、その基礎まで戻って教えてあげる事が大切だと思う。でも、そればかりで元々能力がある子たちがつまらなくなってしまうことがあります。授業の中で、できない子を置き去りにして進めてしまうことは絶対にしない。問題をみんなが解いている間に、できない子を集めて教えてあげることや個別指導をしています。どちらもとても大事なことです。

Q：特に低学年に多いのですが、算数を教える際に児童は指を折りながら足し算や引き算をします。計算能力の向上を考えると、やめさせたほうがよいのでしょうか。それとも、計算が身につくための過程と考えて見守ったほうがよいのですか？

A：指で数えたとか数え引くというのは自

体は悪くない。「指で数えたらダメだよ」という否定はしない。ただし、具体的におはじきや図を用意してあげて１０のまとまりになるのは、３と７で１０になるなどまとまりを感覚として身に付けさせることがすごく大切だと思う。高学年になっても、指を折って数えている子どもがいるときはイメージがもてるようにしてあげる。

Ｑ：私は、男子学生です。今、高学年のクラスを担当しているのですが、高学年になると女子児童の中に異性への興味が出てくる児童がいます。どこまでがスキンシップで、どこからがセクハラなのか境界線みたいなものはありますでしょうか。稲木先生が、高学年の女子児童に接する際に気をつけていることは何ですか？

Ａ：子どもでも大人でも嫌だと思えば嫌。本当に触られたくないと思っている子はいる。基本的には、子どもによって感じ方は違うので個別に考える必要がある。高学年の女子になると、基本的には触らない。「いやだ。」と言えない子もいると思う。先生に嫌われたくないとか、そういう思いをもつと先生に言えないと思う。言える子はいいけれど、もういやだなと思っていても言えない子だっていることを忘れないで接することが大切です。

Ｑ：感情的にならずに叱るには、どのような工夫をしていますか？

Ａ：怒るのと、叱るは違う。感情自体を否定しない。でも、怒りの感情に任せて体を動かしてしまうと体罰など大変な問題になってしまうこともあります。なので、自分を認識できる自分をもつように努力した方がいいと思います。少し離れたところから自分を観察できるようなになっていくことが必要です。具体的には、ゆっくりしゃべる。怒りの感情で、体がコントロールできなくなりそうな時にはゆっくり話す。私も、掴みかかりたくなりそうな瞬間がありますから…。感情をうまくコントロールしていくことが大事。

Ｑ：ＴＡ活動を行っていると、素直にＴＡの言う事を聞いてくれる児童ばかりに出会う訳ではありません。無視する児童には、どのように指導したらよろしいですか？

Ａ：誰しもがいつも心をオープンに開けているかといったらそんなことはないですよね。開かなくて当たり前。人間関係が作れてくれば自然と心は開いてくると思う。焦ってはいけないです。焦らずに、普通に声をかけて、例えば、その子の友達とも仲良く話しをしてみるなどゆっくり人間関係を築いていきましょう。卑屈になる必要は全くないから、普通に話かけていけばいいと思う。

Ｑ：授業中に熟睡している生徒を、どう起こしたら良いのですか？

Ａ：体調によって眠い時もあるけれど、基本的には授業中には寝かせない。熟睡させないことが大事。どうしても眠い人は、後ろの人の邪魔にならないよう

に立って授業を受ける。本当に体調がよくないのなら保健室に行かせます。

Ｑ：授業中、児童に友達のように接してこられてしまうと、騒がしくなり他の児童にも迷惑をかけてしまっています。なにかよい対応の仕方はありますか？

Ａ：友達のように接しさせない。子どもからは、先生だと思ってもらっていないのかもしれません。授業中は、「今授業中だから、そんな言葉の遣い方はダメです。」としっかりと丁寧な言葉で伝えるべき。授業中そういう雰囲気にさせないことはすごく大事なことです。私は、とにかく授業になったら１００％授業に集中できる環境にしたいと思っているので騒がしくなるのは大迷惑。授業中に関しては、今はそういう言葉の遣い方も態度も違うということをきっぱり言うべきですね。

Ｑ：児童に注意することにより、嫌われてしまったらと思うとなにも注意することができません。何かアドバイスを頂けないですか？

Ａ：気持ちはよく分かる。だけど、乗り越えなければいけないね。子どもに好かれたいがために先生をやるのは間違っていると思う。私も子どもに好かれたいと思いますが、それが一番ではない。本当に言うべき事に関しては、嫌われる・好かれるという感情は置かなければいけませんね。本当にしなければいけないことは、好かれようが嫌われようがはっきりと言うべきです。きっちりと指導しなさい。子どもがいつか分かってくれると信じてやる。好き嫌いの感情で大事な事が出来ない人は先生という職業はできないと思う。

□小澤俊介先生に聞く！！　～こんな時にはこんな行動を～　部活編

Ｑ：小澤先生が行っている部活動で、指導するときに心がけていることは何ですか？指導者として特に気をつけなければならない点はありますか？

Ａ：まず、１番部活で心がけるのは安全です。安全面は教員としては絶対心がけることだと思う。部活で１番気をつけてやらなくちゃいけないのは、その子をプロ野球選手にするためとか、プロの選手・スペシャリストにするために部活をやっているとは僕は思ってない。本当に生活指導の一貫として精神面を強くし、１番は社会に出て生きていける強さ人間形成をしています。社会でも通用するような人間にしたいです。

Ｑ：私は、部活動を小さな社会と考えています。それは、部活動は上下関係や礼儀を教える場だけではなく、大会などで勝ち負けを教える場でもあると思うからです。メンバーになればチーム内の競争に勝ったことになり、メンバーになれない人は競争に負けたことになるからです。私は、ＴＡで野球部の指導者をしてこのように部活動が社会の厳しさに似ているように感じました。このことに対して、小澤先生はどのように感じますか。また、先生は部活動というものをどう考

えていますか？

Ａ：本当にそのとおりだと思います。小さな社会と考えていいだろうし、本当にその部活動を飛び出しても生きていけるような人間になって欲しいというのが僕の１番にあります。社会に出ても、絶対理不尽なことってたくさんあると思う。１００点取ったから別にその人が１番な訳じゃない。その人の、人間性がたまたまその指導者や会社の社長に合わないことだって絶対ある。出身大学で切られちゃう人だっている。だけど、それも全部受け入れて欲しい。子どもたちは本当に理解しているかわからないし、理不尽だなと思っている事もあると思う。でも、それを含めて部活動です。技術面は、いつも子どもにもうちの野球部でも、「心が強くなかったら絶対に勝てないし、技術もうまくならない。」と言っています。まず我慢する力・気づくような人間にならないと技術は絶対に伸びない。

Ｑ：部活動を通して、どのように生徒の人格形成をしていこうと思っていらっしゃいますか。また、小澤先生は野球というスポーツを通して、生徒に一番学んで欲しいことは何ですか？

Ａ： 本当にどんなことでも耐えられるような人間になってほしい。子どもにも言っていますけど、「テストの点数１００点取れ。」なんて言わない。一生懸命にやって、その結果だったらしょうがない。だから逆に言ったら、社会に出ても同じ。いつも１００点取れるわけない。野球で考えたら、４打数１安打打てて良かった、３打数１安打打てて良かったというのが野球の姿。それまでのプロセスが重要だと思う。結果じゃなくて、プロセス。ただ、もちろん評価するのは周りの人だから、評価する人が納得いくようにやらなくちゃいけない。最終的に、どの社会にいっても結果は求められる。野球は団体競技なので、満塁ホームランを打つにはチームメイトに満塁にしてもらわなくちゃいけない。ピッチャーが完封勝利で勝つには２７個のアウトを全部三振で取るなんてまずない。２７個の三振をとるにあたっては、キャッチャーは絶対に必要だし、完封で０点に抑えたとしても他の残りのベンチも含めて応援してくれた人も含めて全員周りの人の支えがあっての０点だという事を子どもに伝えています。感謝したり、周りの人と協調したりすることを野球で１番学んでほしい。

Ｑ：私は教師になったら絶対に野球部の顧問になりたいと思っています。部活動を指導していく上で、選手（生徒）になにか徹底して行っている指導していることはありますか？選手（生徒）に期待していることはありますか？

Ａ：徹底して行っていることは、いくつもあります。ただ１番は、挨拶・返事・身だしなみというのは徹底してやらせています。今僕は、「気付く人間になりなさい。」ということを１番言っています。挨拶することも気付けなかったら挨拶できないし、ゴミが落ちるのも気付けないとゴミは拾えない。例えば、

自分のフォームが変だったり、チームメイトのフォームが変だったり、気付こうとしなかったら気付けないし気付いてあげれば教えてあげることができる。そのことを徹底して僕は指導しています。だから、選手にもそういう人間になってほしいと期待をしています。

Q：体力向上の為運動系の部活に入部した生徒と、運動経験者の生徒・実力のある生徒への技術的な指導は同様でよいのでしょうか。なにか意識してご指導なさっている点はありますか？

A：中学校は本当に難しいです。初心者の子は多いし、初心者と経験者とでは同じメニューをこなすことも双方にとってよくない時もあります。試合に勝てなくても、経験しているからといって、全然練習しない選手だったら僕は絶対に使いません。一生懸命毎日来て朝早くから準備して練習の最後まで頑張っている子だったら、ヘタでもその子を試合で出して、背番号もあげる。もちろん初心者の子にとっては、つらい時もある。１回入ったからには３年間やり通して欲しい。僕は、回数を減らしたりとかはしないです。今はつらいかもしれないけれど、「今この練習をみんなと乗り切れば、３年後には君はこうゆうふうに変わるよ。」「初心者だってうまくなる可能性がある。それは君次第だよ。」という意識付けをします。入部したからには最後までやる。運動経験者の生徒には、「初心者の子たちを部から絶対に離しちゃダメ。中学校の部活動なのだからいろいろな子がいていい。仲間を引き上げてあげられるようにならないとダメだよ。」と伝えています。特に大きくメニューを工夫したりとか、もちろん大会前はいろいろ分けたりします。でも、基本的に練習はみんな一緒でその中でお互いを高められるような意識付けを常にしています。

Q：今、ＴＡ活動で自分があんまり得意ではない分野の部活動の指導補助員になってしまったのですが、先生方は必ず自分の得意な分野の顧問になれるのですか。もし、自分の得意ではない分野の顧問になった場合どうしますか？

A：実際に得意ではない顧問をやることの方が多いと思います。校庭が狭いとか、元々野球部がないという現状があります。もちろん最初からいた先生が優先になるし、公立の学校は本当に異動が激しいので異動した先々で部活も持つことになると思う。もし、得意ではない分野の顧問になった場合、それは子どもがかわいそうなのでやりたい子がいればこちらも勉強しなくちゃいけない。その中で、他の学校の先生たちと情報交換していろいろ聞いたり、自分なりに勉強したりとかすることがいい。本当に部活は教員を助ける部分がある。部活動としての大切さということを忘れないようにする。人間を作るという意味での信念をもっていれば、やりがいについてはそんなに変わらない。得意ではなかったら、一緒にやることが１番いい。若ければ若いなりに一緒にやるしかない。一緒にやって心の部分を作ってあげるしかない。

６．特別支援学級

６．１　障がいについて理解しましょう。

特別支援学級とは、学校教育法第８１条第１項によれば「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校において」、「教育上特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対し」、「障がいによる学習上又は生徒の生活上の困難を克服するための教育を行うもの」とされている。具体的には、知的障がい者、肢体不自由者、身体虚弱者、弱視者、難聴者、その他障がいのある者で、特別支援学級において教育を行うことが適当なもの、に対して設けることができる。

ＴＡ活動を始める前に、必ず基本的な問題行動について理解していく必要があります。パニックや問題行動は、周囲が理解するだけで、減らすことできます。子どもたちはなんらかの形で意図を発信しているはずです。それを読み取ってあげれば少しでもパニックを減らせるのです。慣れればどうにかなる、頑張れば乗り越えられるという世界ではなく、通用しないことを大前提に忘れないようにしましょう。

基本的にはコミュニケーションや社会性といった問題に課題を抱えている子どもたちですが、このような子どもたちに対して、それぞれの個性や特定に十分配慮しながら、楽しさや喜びを共有し、自信を育て、自分も人も好きになれるように活動してみてください。

障がいを理解することで、問題行動を起こす子どもたちを「どうしてこんな行動ばかりするの」「どうして我慢できないの」という考え方から「指示がわかりにくかったのかな」「学習方法の工夫をしてみよう」と見つめ直すことができるようになると思います。将来教員になった時の児童理解の幅を広げることにもつながります。

障がいを理解していないとその子どもに対してよい感情を持てなくなってきます。「このような行動は、障がいを持っているために起こるもので、本人も苦しんでいるのだ」ということを繰り返し確認しましょう。

支援する側が、正しい行動を言葉や視覚的な支援により、少しでも適切な支援をねばり強く続けていくことが必要です。

☆ＣＯＬＵＭ　主な発達障がいの定義（文部科学省『特別支援教育について』より引用）☆

◆視覚障がい…視力や視野などの視機能が十分でないために、全く見えなかったり、見えにくかったりする状態をいいます。

◆聴覚障がい…身の回りの音や話し言葉が聞こえにくかったり、ほとんど聞こえなかったりする状態をいいます。

◆知的障がい…記憶、推理、判断などの知的機能の発達に有意な遅れがみられ、社会生活などへの適応が難しい状態をいいます。

◆肢体不自由…身体の動きに関する器官が病気やけがで損なわれ、歩行や筆記などの日常生活動作が困難な状態といいます。
◆病弱・身体虚弱…病弱とは、慢性疾患等のため継続して医療や生活規律を必要とする状態、身体虚弱とは、病気にかかりやすいため継続して生活規制を必要とする状態をいいます。
◆言語障がい…発音が不明瞭であったり、話し言葉のリズムがスムーズでなかったりするため、話し言葉によるコミュニケーションが円滑に進まない状況であること、また、そのため本人が引け目を感じるなど社会生活上不都合な状態であることをいいます。
◆自閉症…他人と社会関係を築くことが困難だったり、言葉の発達が遅れたり、特定のものに継続的にこだわったりして、学校生活や社会生活に支障が現れる状態をいいます。このうち、知的発達の遅れを伴わないものを高機能自閉症といいます。
◆アスペルガー症候群…知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものをいいます。なお、高機能自閉症やアスペルガー症候群は、広汎性発達障がいに分類されます。
◆ＬＤ・ＡＤＨＤ…ＬＤ（学習障がい）とは、知的発達の遅れは見られないが、聞く、読む、話す、書く、計算するなどの能力のうち、特定のものの学習や行動に著しい困難を示すものです。また、ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障がい）とは、発達段階に不釣り合いな注意力や衝動性、多動性を特徴とする行動の障がいです。両者ともに脳などの中枢神経に何らかの機能障がいがあると推測され、発達障がいに分類されます。

人権への配慮
・障がいがある子どもと接することは、甘やかすこととは違います。みんな年齢相応のプライドがあります。
・障がいのこと、住所や氏名、家庭事情などを知る機会があります。これらはプライバシーに属する個人情報です。
・同情の眼、好奇の眼、不必要なおしゃべり、ひそひそ話、指さしなどに気をつけましょう。子どもたちは気になります。時には人権尊重の不十分さにつながります。

６．２　挨拶をしましょう

特別支援学級でのＴＡ活動がスタートで１番大切なことは、「挨拶」です。児童・生徒の中には、挨拶をしても返事ができない場合もあります。これは、自閉症の行動特徴であり、決して無視をしているわけではありません。自分の好きなことをしているときにはなおさらで「聞こえていない？」、「無視されてる？」と思うほど、話しかけられていることに対して無関心です。振り向かない・返事をしない・視線を合わせないといった行動特徴があります。でも、ぜひ積極的に挨拶してあげて下さい。しつこいのはいけませんが、日数を積み重ねて粘り強くやっていると、突然挨拶や返事をしてくれるときがあります。無理に挨拶を要求したりすることは決してやってはいけません。初めから受け入れてもらうのは誰でもみんな難しいので、焦らないでスタートしましょう。

◆初対面

初対面の場合、人懐っこい子どもや好奇心が強い子は、良く話しかけてくれたり触れてきたりします。他方、自分の考えを素直に言ってしまうなど、表現が直接的で、例えば、「今度の先生は太っている。」「（ＴＡの化粧に対して）先生の顔に落書きがしてあるよ。」など、思ったことを何でも言ってきます。ただし、決して悪気はありません。本人にとっては自分の言葉が正しく、相手がどう感じるか配慮しにくいのです。早急な解決方法は難しいのですが、ＴＡ自身は、見本となるよう、日頃から正しい表現方法（言葉遣い）を心がけましょう。

６．３　コミュニケーションをとるときのアドバイス

１）休み時間

休み時間は、子どもたちと一緒に遊びましょう。休み時間に子どもたちは、読書をしたり、絵を書いたり、教室で友達同士おしゃべりしたり、じゃれ合ったりと、思い思いのことをしています。自閉症・アスペルガーの子どもたちは他人に無関心でひとりで遊んでいることが多いです。コミュニケーションをとるのは大事なのですが、無理に一緒に遊ぼうとはせず、ひとりで遊んでいるのを邪魔してしまったと感じたら、「無理にやろうとしてごめんね。」など、言葉でしっかり説明して、安心させることが大切です。

時には遊んでいるというより、同じ行動を繰り返したり、壁を叩いたりします。これは、「常同行動」、「自己刺激行動」という自閉症の特徴のひとつです。他にも、ジャンプを何度もくり返す、壁を殴る、手を叩くなどがあります。こうした行動の背後には、イライラがあったり、精神的な安定を求めていることが考えられます。こうした行動に対しては、人に迷惑をかけたり、本人に危険が及ばない限りは、ある程度は許容した方がよい場合もあります。無理にやめさせようとすると、余計にイライラしたり、時には力強く握られたり、つねられたりする場合もあるので気をつけて対応して下さい。

２）生徒同士のトラブル

自閉症の子どもの場合、ひとりで遊んでいる時に、相手から無理やり引っ張られる、大きな声で話しかけられる、触られるなど、予想外の展開が起こると、相手を突き飛ばすなどのトラブルが起こったりすることがあります。この場合は、「○○さんは今ひとりで遊びたかったんだよね。邪魔してごめんね。」と安心させてあげて下さい。

アスペルガー症候群の子どもの中には、ひとりで遊んでいることで安心するため、友達の輪に入ろうとしない子どもがいます。ただ、すべての友達を否定するわけではなく、相性のいい友達と遊んだりもします。相性が悪い生徒に対して、悪口やいじわるなどがひどい場合は担任の先生に相談しましょう。

３）着替え

大人のマナーを身につけてもらうため、廊下で着替えていたり、上半身裸でウロウロしていたら注意して下さい。特に中学校の特別支援学級の場合は、大人としてのマナーを教えなければならない場面がたくさんあります。男の先生×男子生徒、女の先生×男子生徒、男の先生×女子生徒、女の先生×女子生徒と組み合わせによっても違う場合もあります。どの組み合わせにも共通する、注意すべきマナー違反の例としては、手をつないで移動する、抱きつく、体を必要以上に触る、顔を近づけて話す等があります。そのような行為をした場合は、しっかり指導する必要があります。指導しても改善できない場合は、担任の先生に相談しましょう。

４）できること・できないこと

例えば体育のマラソン。すぐに歩いてしまう子どもがいますが、なにか特別な理由や先生から特に指示がない限りはしっかり走らせて下さい。甘やかすことは、その子どもにとっていいことでは決してありません。もし声をかけてもダメな場合は、一緒に走るなど工夫してみてください。「早くして。」、「やってみて。」など曖昧な表現は意図が伝わりにくいため、できるだけ「腕を大きく振って、足を頑張って動かしてみよう。」、「カラーコーンが置いてあるところまで走ってみよう。」など、指示は具体的にするとよいでしょう。

ＴＡとして指導する上で難しいのは、子どものできる範囲（能力）を見極めることです。できるのにサボっていることに対して、先生方は許していないはずです。「先生はみんなに１番になってもらうことももちろん嬉しいが、みんなには頑張ってほしい。頑張っている姿が一番嬉しいし、頑張っている姿が一番かっこいい。みんながこれから将来のために必ずなるから。」と指導したりしています。児童・生徒ひとりひとりをよく把握し、その子どものできる能力を見極めてサポート・助言してあげることがＴＡとして必要です。

５）勝負事が苦手…

体育のリレーやバスケット、国語のかるた、給食のおかわりじゃんけんなど、学校生活には必ず勝負事があります。しかし、なかなか負けたことを受け入れることが難しい場合があります。例えば、中学３年の男子生徒が、体育の缶けりで、「みんなのせいで負けた。ああイライラする。なんで負けるんだよ。ちゃんとやれよ。負けるのいやなのに。」と言って飛び跳ねたり、口に手を入れて噛んだりしていました。イライラや精神的に不安定になると、パニックや自傷行動、独語などの行動を取ります。このようなパニックを起こした時には、黙って精観して下さい。先生方も冷静に笑顔で、「勝ちたいよな。気持ちものすごいわかるぞ。頑張ったのにくやしいよな。でも、イライラしないで結果を受け止めるんだ。」と仰っていました。なかなかパニックがおさまらない場合はＴＡ個人で対処せず、すぐに担任の先生を呼びましょう。先生方は、子どもを違う場所に移して落ち着かせます。一定時間が経過すればおさまります。その後は蒸し返したり、強く反省を求めたりすることは、ＴＡはしないようにして下さい。

６）学習支援

同じ発達障がいでも、知的能力は個々で違います。数字を理解できない子どもがいれば、九九はスラスラと言える子ども、お金の計算はできる子どもなど、能力は様々です。アスペルガー症候群や高機能自閉症には、狭い分野で、とてもマニアックに驚異的な能力を持っている子どもがいます。これをサヴァン能力、あるいはサヴァン症候群といいます。九九や、アニメキャラクター、歴代の総理大臣、漢字など、自分の興味のあることに対しては極端にずば抜けてできるのです。天才ではないかと感じたりしますが、こうした能力が他の分野に応用はできなかったりします。例えば、九九は言えても、文章問題になると全

くできなくなるということが当たり前に起こったりします。ですので、ある分野ができたからと言って、別の近い分野ができるはずと決めつけたりせず、その子の様子をみながら、ひとつひとつ丁寧に説明していきましょう。

７）学習態度

通常学級で授業中に寝ている児童・生徒がいたら、どうしますか？自閉症やアスペルガー症候群には特効薬はありませんが、パニックや不安が強いときなどに、一時的に薬を飲んで症状を和らげることがあります。薬の種類によっては、眠気が出る薬もあるので無理に起こしたりするのはやめて、先生の対応を観察し参考にしましょう。

居眠りだけではありません。一番授業中に見られるのは、姿勢のくずれです。皆さんは、子どもの姿勢のくずれを見かけたら、「姿勢を正しなさい。」と怒った経験があるかもしれません。それは、やる気がない・だらしないという印象を受けたからでしょう。しかし、脳に機能的な障がいのある子どもは、姿勢くずれが症状として現れます。大人しく勉強しているなと思ったら、突然椅子から転げ落ちる、床に寝そべって勉強を始める、机に突っ放す、椅子にもたれかかるなどの行動をします。だらけている、やる気がないと誤解されやすいのですが、やる気はあるのに身体がついていかないだけだったりします。ですので、ＴＡとしては、まず事前にそのような症状があることを知り、理解してあげましょう。

８）感性

技術や美術、家庭科等の実技の授業で注意しなければならないのは、子どもにやらせるということです。例えば、「星に色を塗って下さい。」と言われたら、みなさんは何色に塗りますか。多くの人が黄色で塗ると思います。しかし、子どもの中には、紫や黒、ピンクなど様々に表現したりする子がいますが、それでいいのです。作業が遅いから、色が一般的ではないから、などを理由に作業を代わりにやってあげるようなことは避けましょう。それはサポートではありません。

ＴＡとしてのサポートは、生徒や他者に危険が及ぶ作業（のこぎり・電動のこぎり・はさみ等）のフォロー、高い棚にある用具を取る（先生の了承を得て）、教室からいなくなる子どもを追いかけて指導する、作業が進んでいない生徒の声かけなどです。

９）生理的要因・環境的要因

ＴＡ活動が慣れてきて注意しなければならないのが、生理的要因・環境的要因、そしてこの２つからくる自傷行動・パニックです。

生理的要因
　触感や聴覚、平衡感覚などは過敏又は鈍感とアンバランスな自閉症のある生徒は、外からの感覚刺激に対して生理的に拒絶反応を示し、それがパニックに移ることがある。

鉛筆を持っている手に触れる、よくできたと頭をなでる、肩を組むなどふいに触れると嫌だと拒否されることがあります。音に敏感な反応をする子どももいます。例えば、技術の機械音や学校のチャイム音などです。泣きだしたり、その場から逃げる、耳をふさいだりします。気をつけなければならないのは、生理的要因を知らずにＴＡ活動を始め、パニックになった子どもを止めようと触って、ますますパニックにさせてしまうことです。

環境的要因
　自閉症のある子は同一性の保持へのこだわりがあり、自分の身の置き場所、時間の流れなどが急に変わると気持ちが不安定になりやすい。さらに頭ごなしに「○○しなさい！！」「ここにいなさい」と行動規制されるとパニックが起きやすい。

あなたが慣れてきて、周りを見る余裕が出てくると、教室で子どもが使った物などを片付けることを自然にやり始めると思います。その時に注意し欲しいのが、元の場所をしっかり確認することです。いつもの場所に、いつもの物がないということでパニックになることがあります。先生から「その辺に置いておいて大丈夫。」などの指示がない場合は、いつもの場所に置くか、わからない場合は先生に聞いてから置きましょう。

１０）コミュニケーションのずれ

コミュニケーションをとっている時、こちらの意図が伝わらない面もあります。例えば、「お腹すいたね。もうすぐ給食楽しみだね。」と言うと、「今日はご飯、魚です。」と答えたり、相手に対して配慮がない面が見られる時があります。ですが、これらは、必ずしも悪気があって意地悪でやっているわけではないのです。それをまず理解しましょう。

１１）給食

給食は、身辺自立に関係しています。給食で良く見て欲しいのは、食事をしている時です。まずはみんな献立通りにおかずが並んでいますか。ご飯だけ、牛乳だけ、などではないでしょうか。確認してください。

では、食べ方はどうでしょうか。口いっぱいに頬張ったり、噛まないで飲み込んだりしてはいないでしょうか。ですが、このような動作の問題は、症状のひとつである場合があ

ります。咀嚼（かむこと）や嚥下（飲み込むこと）が下手なのは、口のボディイメージの未発達、そして偏食は、感覚防衛が関係していると言われています。そんなとき、先生方は、決して無理に食べさせたりしません。むしろ、薬や症状によっては食べられないものもあるので、生徒の食べ物には細心の注意を払っています。先生にそうした点については、相談してみるとよいでしょう。

ＴＡとして、簡単にできる工夫は、生徒・先生と積極的に会話しながら、生徒自身に食事することを楽しいと感じてもらうことです。そのためには、「指導しなければ」という思いが先走ってしまって、無理に食べさせてしまったり、食事のマナーを厳しく指導し、みんなに合わせさせようという考え方で関わったりするのはやめた方がよいでしょう。子どもを追い詰めてしまうことがあります。

７．特別支援学級の先生に聞く

～こんな時にはこんな行動を～

７．１　特別支援学級の先生に聞く～こんな時にはこんな行動を～

※所属や役職は２０１１年時のものです。

□鎌原利幸先生に聞く！！　～こんな時にはこんな行動を～

Ｑ：技術や美術での実技の授業で作業が遅い生徒に対して、ＴＡ学生が急がせたり手助けをしてしまったりする指導は、適切ではないのでしょうか？

Ａ：これはケースバイケースです。例えば、怠けて遅いのか、本当にその子の行動が遅いのか、薬を飲んでいて眠くて遅いのかということではケースバイケースです。なので、個に応じてということになります。

Ｑ：ボディタッチによるスキンシップを、どの程度までやっていいのかわかりません。男同士でも距離が近いとよくないと思います。どのように指導するのが良いと思われますか？

Ａ：人との接し方で「腕の距離とか１ｍの距離ルールで接近しないよ。」という話をします。その場その場で、「距離が近過ぎるよ。体には触らない。」とはっきり言ってあげることが大事だと思います。相手の気持ちを組むことが苦手なので、何度も繰り返し指導しています。

Ｑ：生徒同士で悪口をいうのは、本当に嫌いで言っているのでしょうか。仲良しなのか、それとも苦手なお友達なのか、人間関係がとても読み取りづらい時があります。本気で嫌がっているのか、喜んでいるのかわからず注意することができません。何かよい指導の仕方はありますか？

Ａ：話す方も悪口のつもりで言っていないなど、トラブルになっちゃうよね…。だから、誰が聞いても「馬鹿だなー。」と「お前は本当にバカヤロー。死ね。」というのは全く違います。それが課題であり、障がいからくる生徒もいます。「相手が気にすることだったり、嫌な事なのだから言ってはいけないよ。」とはっきり話をしますがそう簡単には直らないです。

Ｑ：生徒の障がいを理解し個性を育てる上で、ＴＡとして気をつけなければならないことはありますか？

Ａ：生徒の障がい、自閉やLD、アスペルガー等、まずはその障がいを理解することです。特徴・特性ということを理解した上で接するのと、理解しないで接するでは全然違います。最初は、戸惑うこともあるでしょうが、そういう特徴・特性があるという事を理解していればＴＡとしての不安も少しは減るのではないでしょうか。

Ｑ：落ち着いている生徒、落ち着いていない生徒の差が大きい様に感じます。生徒一人一人に合った接し方がわからず、戸惑ってしまいます。何かアドバイスをいただけないでしょうか？

Ａ：落ち着いているいないの差がある、どう接したらというのは、個の特徴を把

握して対応できればいいですね。

Ｑ：授業中、生徒達の集中力を保たせるために鎌原先生が工夫していることはありますか？

Ａ：集中力を保つ事はＡＤＨＤタイプでは難しいのですが、特支学級ではよくスモールステップで進めます。例えば、プリント２枚やったら休憩するなど頑張るゴールを教えてあげながらやります。後は、教員として教材研究を徹底します。子どもが飽きないように工夫し、研修をしています。

Ｑ：私がＴＡ活動をしている小学校で、学芸会の時に裏で道具の出し入れのお手伝いをさせていただきました。その時に、特別支援学級の発表の際に、６年生の児童と準備しようとすると、特別支援学級の先生から何もしないでと言われてしまいました。確かに特別支援学級の児童の指導法については無知なので何も出来ないと思いますが、特別支援学級の児童には遠回しなお手伝いもしない方がよろしいのでしょうか。通常学級でＴＡの活動中は、特別支援学級の児童とは関わらない方がよろしいのでしょうか？

Ａ：本当に困っていたら手伝う。あえて困らせることもよく我々が使う手だけど、自分で考えさせてやらせるという場面があります。もう少しでよしできる・失敗しても良いという時に、第三者が手伝うような時はやめてとはっきり言います。学生さんなんだから、教員にわからない事があったらどんどん聞いて下さい。

Ｑ：私は通常学級で１日中小学校へＴＡ活動を行っていると、特別支援学級の児童と接する機会があります。その時に「お世話してもらっても良い？」と特別支援学級の担任の先生に頼まれ、一緒にその場にいたりするのですが、どのように接すれば良いのか分かりません。具体的にはどのように障がいのある児童とどう接すれば良いのでしょうか？

Ａ：安全が第一だよ。障がいがあるということは、どんなふうになるかわかんないよ。安全第一！！！！！！

Ｑ：通常学級でＴＡの活動の際、何度注意しても、勉強するように促しても応じてくれない生徒がいます。特別支援学級では、そのような生徒に対してどのような支援を行っているのですか？

Ａ：特別支援については、やはり障がいの特性によって課題ももちろん違ってきます。個に応じた指導をしていかなければならない。

Ｑ：休み時間など生徒が騒いでいたので、１度注意してその場はおさまりましたが、時間が経って再び注意をしなければならなくなったとき、２回目にはどのような注意の仕方をしたらいいと思われますか？

Ａ：その子の特徴にもよる。障がいによる奇声もある。クールダウンさせるために、別の部屋連れていくこともありま

す。粘り強く言ってくしかない。それから、周りの子たちは静かにしていたら、周りの子のフォローも大切にして下さい。

Q：特別支援学級は１・２・３学年同じ教室での学習・生活環境ですが、学年によって目標にしているご指導などはありますか？

A：知的障がいの学級の場合、中学３年生でも知的に低い生徒もいます。だけど、あくまでも「中学３年生は３年生だ。お前たちは最上級生だから、２年生１年生の手本だよ。」と僕は言います。精神年齢ではなく、生活年齢での対応が大切です。

Q：感情的にならずに叱るには、どのような工夫をなされていますか？

A：演技が必要だよ。ロボットじゃないから、能面のように言っても誰も聞かない。感情を出して叱ってあげないと、本当に怒っているのか、わかんない。感情をうまく表現しながらやっていくことが大切です。だから教師は、演出者演技者でもなくちゃいけません。まだ、学生だからいろいろ言われればショックですよね。親にも恋人にも言われたことないような理不尽な言葉もあびせられるでしょう。でも、言葉の遣い方がわかんないんだなと分かっていれば余裕をもって行動できます。

Q：ＴＡ活動を行っていると、素直にＴＡの言う事を聞いてくれる生徒ばかりに出会う訳ではありません。無視する生徒には、どのように指導したらよろしいでしょうか？

A：だめだったらちょっと距離を置いてみる。他の生徒もいますから。それに、１週間に１回でなかなか人間関係はできません。Ａ君ダメだったら、Ｂ君Ｃ君Ｄ君でいいじゃない。無視されるということは、興味関心があると思うよ。困ったらプロに任せればいい。ただ、その子がなにか無視しながら悪いことをしていたらだめだけどね。教師になろうとするなら無視されて嫌だと思っていたら務まらない。

Q：授業中に熟睡している生徒をどう起こしたら良いのでしょうか？

A：薬であればもう起きられない。後は、机間巡視をして声かけをしていくしかない。薬は、暴れないように押さえつけるわけだから無理やりやっていても本当に死んだようにバタンって寝ています。

Q：授業中、友達のように接してこられてしまうと、騒がしくなり他の生徒にも迷惑をかけてしまっています。なにかよい対応の仕方はありますか？

A：堅苦しい授業はつまんないし、授業と休み時間の区別をしっかりつけていくしかない。メリハリが大切です。でも授業中しつこい様ならその子の近くにいないようにする。近寄らなくちゃけないような状況だったら、先生がいるから聞いて下さい。

Q：生徒に注意したことにより、パニック

になってしまったら、怒ってしまったら、注意したことで生徒に嫌われたら、と考えるとなにも注意することができません。何かアドバイスを頂けないでしょうか？

Ａ：命に関わることであれば、パニックになっても関係ない。命の危険に関することは、厳しく注意をする。それは基本原則です。教師は人気商売ではありません。もちろん嫌われるよりは好かれたほうがいいけども、無理して好かれても意味はない。やはり信頼される教員でなきゃいけないし、ＴＡでなきゃいけないと思う。子どもとの信頼関係ができれば、どんどん注意しやすくなる。１週間に１回だと、なかなか信頼関係もできないから踏み込んでの指導は難しいと思う。そしたら無理する必要はありません。なにかあったら、そういう情報を教員に与えてくれると、教員も助かります。

□小澤俊介先生に聞く　～こんな時にはこんな行動を～

Ｑ：生徒が、授業中に騒いでいたので何度も注意をしましたが聞いてもらえませんでした。それは障がいがあるから騒いでしまっているのか、それともふざけて騒いでいるのかわからず、どうしようと迷っているうちに授業が終わってしまいました。ＴＡとして学生は生徒の障がいを理解し、どのように指導すれば良いのでしょうか？

Ａ：僕も実は、大学生の時ボランティアで授業に入ったりしていたので今思えば特別支援的なお子さんもいました。その時に子どもにも言われたことで、傷付くような言葉を言われました。やはりうまく言う事聞かない事もあります。けど、そこでなんか悩むよりも悩むことも勉強だと思いました。担任の先生に報告して、「こういうときどうすればいいんですか？」「こういうときはこうしたほうがいいですか？」など、担任の先生とうまくつながることがことの重要だと思います。

Ｑ：特定の生徒がずっと挨拶をしてくれません。１日ＴＡ活動をしていても、一言も生徒話すことなく終わってしまうことがよくあります。できれば生徒全員と仲良く話したいと思っているのですが、なにか良い方法はありますか？

Ａ：こちらからの声掛けは続けた方がいいと思います。君を見ているよというアピールになります。ただ、しつこいのが嫌な子もいます。それは大人でも一緒だと思います。思春期にあたる中学生であれば、女性の先生と話すのが苦手な子もいるし、照れくさい子だっています。なのに、挨拶してくれないから挨拶しなさいと指導するのはおかしなことなので、それよりもやはり声を掛け続けていくことは重要だと思います。後は、時間がかかる問題だと思います。障がいの特性の子もいます。すぐに返事や挨拶がパッと出ない子もいるし、本当にその先生を嫌って挨拶しない子もいる。１日１回声をかけていくだけでも全然違うと思います。

Ｑ：通常学級でのＴＡ活動をしていて、発達障がいの疑いのある生徒に出会いました。その生徒の具体的な障がいはわかりませんが、担任の先生に発達障がいの疑いがあると教えてもらいました。その生徒は、自分が悪いことをしたことは理解できるが、言葉がなかなか出てこないという症状があるそうです。言葉を引き出そうとしても、とても難しいです。そのような、特別支援学級ではないが、発達障がいの疑いのある生徒に対してどのように接したら良いと思われますか？

Ａ：発達障がいというのは、ひとつ頭の片隅に入れといたとしてもやはりその子は通常学級なので周りのみんなの子の目もあるし、その子自身のプライドもあります。だから、常にその子に言葉を引き出そうとするとその子自身もストレスを感じるし、プライドの問題もある。本当に困ったときにサポートしてあげる程度でいいと思います。言えば言うほどその子のプレッシャーになる。特に、通常学級に近いお子さんであればあるほど嫌がると思う。本当に発達障がいは幅が広いので、実際に通常学級でも通用するようなお子さんはいます。お子さんたちには差があります。お互いのプライドとか、様子を見ながら指導していきます。

Ｑ：特別支援学級の生徒は、比較的フレンドリーに接してきてくれます。が、しかし、適度な距離を保つ必要があると思います。小澤先生が、生徒と適度な距離を保つ為に工夫していることは何ですか？

Ａ：フレンドリーに本当に接してきてくれると思います。それは本当に嬉しいことです。しかし、社会に出れば特別支援学級から出ていったお子さんの方が少なくなります。彼らの生活年齢に合わせてあげることが大切です。精神年齢は障がい特性があるので本当に３歳４歳のお子さんもいます。１番は今何歳であるのか１３歳１４歳１５歳のお子さんとして見てあげることの方が重要。その中での距離間を保つフレンドリーな部分はもちろんフレンドリーでいいですけども、世の中に出た時に１３歳から１５歳の行動ではないのであればきっぱり言うべきだなと僕は思います。

Ｑ：ＴＡ活動に行っていて、男子生徒に体を触られたことがあります。私はやっぱり異性の生徒にこれはいけないことだと思い注意をしましが、適当に流されてしましました。こういう時は、どう指導したらいいのでしょうか？

Ａ：ＴＡの学生には必ずダメだって言う事は伝えて欲しい。特別支援学級のお子さんたちはすごくそういうところを見ているので、最初の対応でかなり変わってきます。最初に触られた時に、「それはダメだよ。」というのをまず言う事です。嫌われるとかではなくて、学校の教育現場としてそれはあってはいけないことなので、「絶対にそれはダメだよ。」ということを学生には言ってもらいたい。ただ、言っても適当に流され

てしまったら担任の先生に必ず報告をして相談をすることです。担任の先生が注意をする指導をするということを継続してやっていくしかありません。担任の先生に報告をするということもＴＡの学生には徹底してもらいたいなと思います。

Ｑ：感情的にならずに叱るには、どのような工夫をなされていますか？

Ａ：場合によっては絶対人間なので、感情的になることの方が逆に大事。世の中出ても、絶対にこの場面では人は感情的に怒る場面で感情的に怒らなかったら、本人達も絶対わからないと思う。感情的に叱るのも重要だし、逆にここで感情的に怒っても意味がないところの場面もあります。それは逆に演技をして、静かに言い聞かせる叱り方もあるだろうし、話をじっくり聞いてあげて叱る場面もあるだろうし、逆にこんなにわざと大げさに怒る必要もないところを演技でおもいっきり怒ってみたりすることもあります。それは事の重大さによって違うし、その場合によって使い分ける。ただ人間だから、感情的に怒る方が本当に子どもには伝わると思う。

Ｑ：ＴＡ活動を行っていると、素直にＴＡの言う事を聞いてくれる生徒ばかりに出会う訳ではではありません。無視する生徒には、どのように指導したらよろしいでしょうか？

Ａ：ひとつは、無視する理由もきっと生徒にあるはず．無視する理由を探ってみることも必要なのかな。中学生になれば、思春期で僕たちも経験した通りに、なにもなくてもイライラする事や、なにもなくても人と話したくないときだって絶対人間なのである。だからそこは空気を読んであげて、「教師はあなたのことをちゃんと見ているよ。」という声かけはしっかりしてあげて、それでも無視するようであればちょっとそっとしておく。無視されて心のなかでむっとしてしまったとしても、この子はなにか今日あったのかなとか、今は聞きたくないのかなって、逆に流してあげた方がこの子にとってはいいときもある。ただ、絶対無視してはいけない場合もあると思います。それについては引く必要はないと思う。そこは思いきってぶつかる必要もある。特別支援のお子さんは、自分の興味のあることだけを聞いてくる子もいます。こっちから話しかけても無視する子もいます。けど、気にしない方がいい。日々の積み重ねで信頼関係もできてきます。

Ｑ：授業中に熟睡している生徒をどう起こしたら良いのでしょうか？

Ａ：特別支援学級の場合は、通常学級のお子さんの熟睡とは異なる部分があります。薬を飲んでいるお子さんもいるし、もう本当になんとも言えないです。けど、ここは起きて欲しいという場面はもちろん絶対声かけすべきだと思います。だた、それによってイライラしちゃう子もいるし、ストレスを感じる子もいるので、学生の方には声かけしてくれるくらいでいいのかなと思います。

この授業の中で絶対に起きて欲しい場面とかっていうのは絶対担任の先生が起こします。

Q：授業中、友達のように接してこられてしまうと、騒がしくなり他の生徒にも迷惑をかけてしまっています。なにかよい対応の仕方はありますか？

A：メリハリはつけてもらって、授業中は授業中なので休み時間とは違うというのを子どもにもわからせてもらいたいと思います。それについては、学生には１番気をつけてもらいたいと思う。友達のように接してこられて、しゃべりかけられるような状況で授業の妨害になるようであれば離れてもらいたい。「今は授業中だからね。あなたの隣にいたらあなた気になるだろうから私は向うに行くね。」と言ってもいいと思う。先生と生徒という関係は、しっかり分からせるように距離間を保つようにはしています。

Q：生徒に注意したことにより、パニックになってしまったら、怒ってしまったら、注意したことで生徒に嫌われたら、と考えるとなにも注意することができません。何かアドバイスを頂けないでしょうか？

A：注意してパニックになるってことは、絶対に理由があります。まずその理由によってだと思います。けど、もちろん命の危険・怪我の危険とかだったらパニックになろうがなんだろうが、バシッと叱ったり大きな声出したり思いっきり注意した方がいいと思う。僕は、その子がここでパニックになるなっていうのはなんとなく一緒にいるとわかります。担任に、報告してもらえれば大体見当はつきます。学生さんに全然理由がない、比がなくてもパニックになる事もあります。それはすぐに報告してもらいたいな。そこまでこう追い込むように注意・指導するのは、担任がやればいいのかなって思います。

Q：特別支援学級の生徒が、特別活動によって人間形成の他にどのような影響があると思いますか。また、教え子の中に、特別活動によって変わった生徒がいましたか。もしそのような生徒がいましたら、それは、どのような活動によってどのように変わったのか詳しく教えてください？

A：１番は大きな行事です。特別支援学級は、行事がすごく多いので本当に外に出る経験・みんなでなにかやるという経験不足なお子さんが多いのでみんなで練習して、団結し人前で発表するというだけでも１人１人の強さになっていくと思う。繰り返しを３年間続けると、今までの卒業生はみんな行事に人間的な成長をしていると思います。成功体験を積ませるだけでも、その子には自信がついて意欲的になる。

８．現場の先生の声とアドバイス

８．１　先生にとってＴＡってどんな存在！？！？

まだＴＡさんと、なかなか関わる機会は少ない。本当に子どもが好きで、学校のことを知りたいって思ってくれる方なら、どんな方でも学校に来てくれたら、私は嬉しい♪

僕らでは目が届かないところを見てくれている、非常にありがたい存在です。先生になりたいって思う人が来てくれたら１番嬉しい！！子どもに寄り添って、一緒に考えようという思いを持ってきてくれればいいかな♪

学生に本当に来ていただいて、大変助かっています。来てもらわないと本当に困るというぐらいの存在なんです。子どもにとっての支援者という存在ですね。精神的な部分も含めた、子どもの支援をしてくれる補助の方であって欲しい！！

学生のボランティアなので、担任とは違うと思います。生徒の近くにいてあげて欲しいのと、手助けしてあげたり、ちょっと足りないところを言ってあげたり、お話してあげたりすればいいと思う。寄り添って上げるのが一番大切なんじゃないかなと僕は思います♪

８．２　先生に質問！教師の仕事教えて下さい！＜共通質問＞

※所属や役職は２０１１年時のものです。

Ｑ：教師の仕事で魅力・素敵なところは何ですか？

鎌原：通常も特別支援も、両方とも共通して子どもの成長や活躍が見られるというところが一番の魅力です。特別支援学級で言えば、入学してきた時には自分で着替えができなかったのに、卒業する頃には後輩の着替えの手伝いまで面倒見ることができるようになっていることも１つの成長だと思います。

稲木：子どもがいい方向に変わっていく、成長していくのが近くで見られるところ。学芸会でも運動会でも、保護者や地域の人達は結果を見に来る。でも、僕らはその子どもが成長していく過程っていうのをずっと見ていられる。大変なこと、苦労したことを乗り越えた瞬間にすごくなんとも言えないいい顔をする。子どもたちと一緒にやっていくことで、子どもが乗り越えた時の嬉しさっていうのはすごく何事にも変えられない。そこが魅力です。

小澤：特別支援学級で通常学級とは違うのは、まずひとつは子どもたちに障がいがあるということです。本当に一人一人をじっくりみて、障がいの特性をとらえながら見ることができる。でも、通常学級のお子さん達と比べてやはり、できること・できないことがはっきりしています。それも含めて一人をじっくり見て、その成長見て上げられ３年間まぢかで成長を見てあげられるのはすごく魅力的。

松村：仕事なのですけどよく笑う。１日の中で、すごく笑う仕事だと思います。子どもが面白いこと言ったとき、昨日できなかったことが今日できるようになっているのを目にしたとき、すごく嬉しくなる。ただし、指導するときは本気で叱ったりして、人間の感情をダイレクトに感じることはできる。仕事しながらも生きている実感をもつことができ、とてもやりがいがあります。

Ｑ：一番心がけていることは何ですか？

鎌原：特別支援学級という立場なので、親も含めてそれぞれのニーズに応じた対応ということを心がけています。具体的に言えば、視覚優位のお子さんには、１日の計画を板書するとか、目で見てわかるような教材を用意するとかです。ダウンのお子さんですと、人なつこい・人が大好きなので、通常学級との交流場面を多く設定するなどです。これは一つの例ですけども、個に応じたっていうのはそういうことです。

稲木：一番心がけていることは、プロ教師として昨日の子どもと今日の子どもを違う子どもにしなければいけない

ことです。昨日よりも今日の方が、少しでもなにか身に付けて成長している、そういう変化を与えられる。そういう先生になるべきだと思う。小さな変化でもいい。明日に向かって希望をもたせられる、そういうような先生になることを心がけています。

小澤：生徒に対してその障がいを見てあげる。障がいを見てあげるのだけれども、一人の中学生として見てあげることを心がけています。それと、特別支援学級は、特に小・中・高を含めてかなり特殊です。一番特殊なのは、教員、指導員、学生ボランティアも含めてみんなで生徒を見るというスタンスです。ひとつの授業をみんなでみるというスタンスなので、情報交換を行うなど、教員同士のチームワークをなるべく心がけています。

松村：子どもたちに、いろいろな力を身につけさせるのが仕事なので、自分自身も向上心をもってないといけないと思っています。自分自身も子どもと一緒に高まっていくという気持ちは大事にしています。

Q：これだけは守ろうとしているルールは何ですか？

鎌原：学校の教員というのは、教師対生徒という関係が日常ありますが、元は人と人です。１人の人間として認める。特に知的障がいについてよく言われるのは、精神年齢ではない生活年齢で対応することです。中学３年生の子を、赤ちゃん扱いしてもしょうがない。精神年齢は、７歳８歳というお子さんもいますが、あくまでも１３歳から１５歳ということで生活年齢では一人前です。人と人なので、相手を認めるということを心がけています。

稲木：子どもを、１人の人間としてちゃんと尊重することです。人として対等だと子どもに対して思っています。でも、それは子どもを大人扱いするということではありません。教えるべきことはしっかりと教える。子どもだから分からなくて当たり前なので、そこはしっかりと教える。自分が間違えたらしっかり謝ります。

小澤：一番は教師として、厳しくて優しい先生でいたい。逆の先生は、いっぱいいると思う。いくらでも優しくて厳しくすることはできると思うけど、厳しくして、でもそれが優しさだということを子どもたちには気付いて欲しい。何十年、二十年三十年後に、「あの先生に言われた事が今生きている」と言われるような教員になりたい。厳しくするのは裏返しで本当はその子の為ということをわかってもらいたい。それが僕の一番の中心にあるところです。

松村：どんな子にも可能性があると信じて、最後まで見捨てないで向き合うこと

を、とても大事にしています。この子はできない、あの子は違うとなるべく垣根を作らないで、やりたいです。その子にできないって思わせたくないですね。どの課題にも全力で向き合い、つまはじきに合う子ができないように気をつけています。

＜小学校の仕事について＞

□稲木努先生

Q：小学校教育で、稲木先生が一番大切だと思われることはなんですか？

A：小学校は、基礎的な事・勉強の基礎・人間形成の基礎を学んでいると思う。小学校でしか体験・経験できないことをしっかりと経験させる。知識を身に付けるだけではなく、人間形成の基礎になる経験・体験をたくさんさせてあげたいと思う。それが小学生で大事だと思います。

Q：男性教諭が、女性教諭に接する際に気をつけなければいけないことはありますか？

A：あんまりそれを強く意識してしまうと、女性の方に伝わってしまうと思う。男とか女とか意識していると気持ち悪い。同じ教員として、同じスタンスでやっていくという思いをもってやってもらいたいです。性的な発言とかに関しては気を付けた方がいいと思う。普通に接していくのが１番いいと思います。基本的には平等でありたい。

Q：稲木先生にとって、好かれる教師とは何だと思いますか？また、発達段階を踏まえて気をつけていることはありますか？

A：好かれるためだけに仕事はしてない。低学年には、思いっきり満面な笑顔でいつもニコニコしながらいっぱいスキンシップしてあげればいいと思う。高学年には、ちょっと大人心くすぐるような大人っぽくなってきたと認めてあげるような発言をしています。一人の人として認めてあげるのだけど、その子に応じた認め方をしてあげられたらいいんじゃないかな。

□松村由佳先生

Q：女性だからといって、職場で仕事内容を変えられたりすることはありますか？

A：あると思います。力仕事関係は率先して男性がやってくれてありがたいと私は思うこともあります。性別・家族構成によって、仕事が変わってくるというのは正直あります。自分のできるところは自分からやっていけば、あまり気にすることじゃないのかなと思います。

Q：教育現場の中で、女性教諭にしかできないことがあると思われたことはありますか？

A：あまり思いつかないです。中学年とかで第二次成長の授業をする時に、男の子達は男性の先生に話を聞いたり、女の子達は女性の先生に話を聞くという機会はどの学校でもあると思います。

そういう時は、役割があると感じます。

Q：女性教諭と男性教諭の違いについてどのように考えていますか？

A：男性の方が、威厳があるように見られるのは第一印象ではあります。けど、現場で活躍しているいろんな先生を見ていると、女性でも威厳のある方はとても大勢います。現場に出た時に指導の一貫性、子ども達のことちゃんと思って指導ができる人は、子ども達は一線引いて見ます。

Q：先生がクラス運営をする際、なにか徹底して行っている指導はありますか？

A：いっぱいあります。例えば、クラス全員で遊ぶ時間を作ります。今は昼休みにみんなで遊んで、コミュニケーションを取りづらい子や特定の子しか遊べない子などと仲良くできくようにクラス遊びをする、毎日日記を書いて私と繋がりを持つことも本当に徹底してやっています。指示を出したらやったかどうか確認をするということも、結構徹底しています。

８．３　先生はこんな大学生でした！！

僕は、本当に大学の時は、友達と本当によくいろいろなところに遊びに行きました。サークルは１年間ぐらいやっていましたけど、基本的にサークル部活は所属していません。お酒を飲んで朝を明かしたこともあります。バイトに明け暮れてお金を稼いだ経験もあります。そういう中で、結局自分が一番やりたいことはなんだろうというのをみつめた大学生活でした。

大学の授業で、６年生で習う歴史人物をくじ引きで決めて、その人物に関する模擬授業をしました。大学生相手だけど子どもだと思って、模擬授業をやったときに、そもそも授業を作ったことがないのに授業を作れと実習前に言われてすごく準備が辛かった。授業ってどう作るのかとか、本当は先生になりたい人は学生の時に模擬授業をもっとやるべきじゃないかな。印象的な授業でした。

８．４　現場の先生からＴＡ活動をするみなさんへ！！

鎌原利幸先生からのメッセージ

大学生がすべきことっていうのは、まずは大学の勉強だと思います。これは教員になるとか会社員になるにしてもまず大学生は大学の勉強をしっかりするこれを崩しちゃうと、本末転倒になってしまう。その上で、いろいろ経験・体験をして人間関係形成能力を養う。つまり、対人関係ですね。そういう力をつけてもらいたいと思っています。

ＴＡ活動のアドバイスは、教員になろうとしている方たちなので教師や生徒との信頼関係を作ることがポイントです。週１回の学校現場な貴重な体験！落ち着いているクラスとか安定しているクラスの授業はどうなっているのかなど自らアンテナを広げ観察するといいですね。先生の教え方や、クラスのこの掲示物ひとつもそうだけど雰囲気はどうだろうとか、先生達の連携はどうなっているだろうとか、たくさん観察する。将来教員になった時、必ず役に立ちます。また、わからないところはどんどん質問すればいいと思います。それも、教師や生徒との信頼関係・人間関係を築くポイントです。ＴＡは学生です。肩の力を抜いて子どもと正対して下さいね。

松村由佳先生からのメッセージ

大学生さんはよくイベントとかに参加されていてすごく感心しています。

教員になると１日のほとんどは授業をする時間です。教育実習以外でも、授業をする機会を与えてもらうっていうのが私は大事だと思います。学生の時から授業をできるようにして、卒業するのが１番大事だと思います。

ＴＡという活動をしていること自体、教育に対する意識の高さ、子どもと関わることが好きだという事がわかるので、そういう人に本当に先生になって欲しいです。ただ、ＴＡとして学校にくると課題などもかなり見えてきたり自分の力不足を感じたりすることがあると思います。けれど、いろいろなことを知り現場に出るということが、どれほどの強みになるかというのは卒業して教員になったら感じることが出来ると思います。本当に現場の先生は忙しそうにしているけれど、たくさん話をして、頑張って下さい。

小澤俊介先生からのメッセージ

自分の経験から、大学生に一番大切なことはまず大学生活を楽しむことだと思います。学生生活を楽しめない人が、教師になって子どもになにかを教えるのはやはり難しいと思います。自分のプライベートも含めて、友達といろいろなところに行ったり、自分の好きなことやったり、好きなことをみつめたり、まずその学生生活をしっかり楽しむ場が必要です。それにプラスして、例えばアルバイトして社会経験を積むとか、世の中のことを徐々に知っていくことも大切だと思う。教師になる勉強ももちろん重要だと思います。しかし、それ以上にやはり人とのコミュニケーションや楽しかった学生生活を教師になったときに子どもたちに伝えていった方がいいと思います。

学校にきたら教員・指導する立場としての自覚はもってもらいたいです。遊びにきた訳じゃないし、現場に入ってしまえば大学生という立場ではなくなります。大学生だけれども、指導者を目指す大学生となるので教育実習と一緒である程度教員らしさや指導者になるという心構えで来てほしい。それと、学生は教員とは違った角度で教育現場にいられます。今やっていることは後で必ず自分のプラスになる。今は、わからないかも知れない。１週間に１回だけで子どもも、毎日見ている先生と１週間に１回しかこない大学生とでは全く接し方が違うのは当たり前です。けれども、教員になってから「あれってこういうことだったんだ。」とか気付けます。だから、今与えられたチャンスの中で一生懸命やっていれば、今自分で悩んだり考えたりすることが、後々自分の中での結果になってくる。ＴＡをやっている学生は、一生懸命現場を見てもらいたい。せっかくＴＡにきているなら、自分がどういう教員になりたいのか、信念・覚悟みたいなのをぜひ作ってもらいたい。「私は、現場を知っているからもう生徒達といた知識がある。」と頭でっかちにならないで欲しい。例えば、１年から４年やるとＴＡに慣れちゃいますよね。教員とＴＡの違いというのを、考えておくべきだと思う。ＴＡという立場と、教員っていう立場ははっきり違うことの方が多いです。

大学の授業を一生懸命やって欲しい。その空き時間でＴＡに来て子どもたちといろいろ話したり遊んだりいっぱい経験積んでもらいたい。本当に学生生活をエンジョイした人のほうが、絶対教員人生楽しい。４年間の大学生活をすごくエンジョイして、ＴＡをやりながら教師になってほしいなと思います。

稲木努先生からのメッセージ

大学生は、勉強も大事ですが、しっかり遊んでほしいと思います。いっぱい遊んでくださいっていうのは誤解されると困りますが、勉強だけをしてきたような人に、先生になってもらいたくないと思うのです。特に自分の体を使って体験的な活動をしてきてもらいたい。とにかく自分が興味をもったものに関しては、どうしようかなと思ったら、「迷ったらＧＯ」という気持ちで、積極的な方を選び、いろいろな体験をしてきてください。体をなるべく使って遊んできてください。そうした方が教師になった時に、「こういう経験をしたよ。」と児童に語れると思います。

先生になると、思う様に行かなかったり、自分の思いや考えとのギャップを感じたりする事があると思う。子どもと話が通じない・何言っているのか分からない・自分の言葉が通じない。僕も初任者の時、低学年の子供とうまく意思疎通ができなくてつらいと思っていた時がありました。自分の思うようにならない事はいっぱいある。自分の思ったようにいかなくて当たり前なのだから、すぐに辞めようなどと考えず、まわりの人に相談をするなどして、教師を続けてほしいと思う。先生という職業は、すごくいい職業だと思います。子供が、いい方向に変わっていく・成長していく瞬間を共に感じられるのはすごい喜びです。その喜び・楽しさは、楽な楽しさではなくて、充実する楽しさ。是非いろいろな経験を積み、魅力的な先生になってほしいです。

おわりに

ＴＡ活動を行うことによって、現実の子どもたちを観察し、触れ合う経験を得ることができ、自分の世界が目に見えて広がっています。ただし、「楽しい」、「やって良かった」と感じる前に、「難しさ」、「やりにくさ」が壁になることも現実です。ＴＡ活動は、自身の教職への志向性と適性の確認、学習意欲の向上、教育実習の予行練習になるというメリットも多いのですが、指導の仕方、先生や生徒とのコミュニケーションなど、さまざまな面で、「難しさ」や「やりにくさ」を感じることが少なくないと思います。

本書では、その壁を少しでも取り払い、ＴＡ活動の担い手の育成・活動内容の充実につながればと思い、研究を進めてまいりました。この時、大学教授ではなく、他ならぬ当事者である私たち学生自身が主体的に動いて、現場の意見を盛り込んだ、“生の声の教科書”を作成すべく、これに取り組みました。

考えるための「きっかけ」や「手助け」となるような教科書を目指した為、必ずしも指導方法についてのいわば「正解」が記載されているというわけではありませんが、基本的なＴＡの活動内容に加え、学生が現場で感じがちな「難しさ」、「やりにくさ」についての、学生の意見や現場の先生方の意見に多くのページを割いていますので、ＴＡ活動の「ヒント集」としてお使いいただければと思っています。

私がＴＡ活動をしている時も、さまざまな苦難がありました。しかし、この活動は将来への夢と希望、そしてかけがえのない貴重な経験を与えてくれています。私の入学当初よりも、教職の知識はもちろんのこと、実践的な教育経験という面でも大きく成長していることを実感しています。本書が、皆さんの現場活動の充実に、少しでもお役に立てるなら幸いです。なお、このテキストは、本当の意味では、完成版では全くありません。むしろ、これからの皆さんの活動を通して、このテキストの内容が、より発展させられ、改善されていくことを願っています。

最後に、教科書作成に協力して下さった学生の皆様、そして日頃、ＴＡとして私たちを受け入れて下さっている学校の先生方に、心より感謝を申し上げます。

２０１２年１１月１３日

人間学部人間科学科教育人間学専攻教育人間学コース　４年　長島美里
編者を代表して

参考・引用文献

◇滝沢和彦　編著（２００８年)『平成１９年度　大正大学における教育連携事業　報告書―地域の学校や教育委員会との連携を求めて―』　大正大学

◇滝沢和彦　編著（２００９年)『平成２０年度　大正大学における教育連携事業　報告書』大正大学

◇滝沢和彦　編著（２０１０年)『平成２１年度　大正大学における教育連携事業　報告書』大正大学

◇滝沢和彦　編著（２０１１年)『平成２２年度　大正大学における教育連携事業　報告書』大正大学

◇滝沢和彦　編著（２０１１年)『平成２２年度　大正大学　教職課程年報』大正大学

◇香川秀太　（２０１１年)『大正大学における学校インターンシップの活動報告(平成２２年度版)―状況論を背景とした「実践共同体のデザイン」―』pp.3-9. 滝沢和彦　編著（２０１１年)『平成２２年度　大正大学における教育連携事業　報告書』　大正大学

◇操木豊　編者（２００２年）　『今伝えたいこと　第一巻』　東京都一水会

◇小泉博明・宮崎猛　編著（２０１０年)『小学校・中学校・高校対応　教育実習まるわかり』　小学館

◇無藤隆・岡本裕子・大坪治彦　編著（２００５年)『やわらかいアカデミズ・〈わかる〉シリーズ　よくわかる発達心理学』　ミネルヴァ書房

◇子安増生・二宮克美　編著（２００５年)『キーワードコレクション　発達心理学　［改訂版］』　新曜社

◇田中康雄・木村順(２００９年)『これでわかる　自閉症とアスペルガー症候群』　成美堂出版

◇児童心理編集委員会(２００５年)『ＬＤ・ＡＤＨＤ・自閉症・アスペルガー症候群　「気がかりな子」の理解と援助』　金子書房

◇文部科学省　『特別支援教育について』
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main.htm

作成協力者一覧（２０１１年時）

・大正大学人間学部教育人間学科学生

大久保明枝、出村理紗、永倉史也、鳴海和大、遠藤真輝、松本耕治、当間由衣
最首めぐみ、佐藤達也、富樫智貴、瀬上知宏、大庭真梨子、染野愛、西島晴信
小池雄貴、斉藤大樹、中村廉、岡本雄大、藤岡佑一、小竹可純、吉岡拓哉
外川陽平、斉藤雅洋、太斉凌子、矢ケ崎愛維

・大正大学表現学部人文学科日本語日本文学コース学生

尾形海美

・匿名希望学生５名

・豊島区立西巣鴨中学校	主幹教諭	特別支援学級	鎌原利幸
・豊島区立西巣鴨中学校	教諭	特別支援学級	小澤俊介
・練馬区立向山小学校	主幹教諭		稲木　努
・練馬区立向山小学校	教諭		松村由佳

〈以上４０名〉

謝辞）

本研究にご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。本書は、２０１２年１２月に大正大学に提出された卒業論文（提出者：長島美里）に基づくものです。なお、本研究は、JSPS 科研費 23730627「社会人基礎力を効果的に育成するための学校インターンシップの改善と学習過程調査」（研究代表：香川秀太）の助成を受けて行われました。

編著者紹介

長島美里
大正大学　人間学部人間科学科教育人間学専攻教育人間学コース
1年次から4年次の4年間にわたって、ＴＡとして、豊島区やその周辺の小学校、中学校にて、学校支援ボランティア・インターンシップに参加してきた。

香川秀太
大正大学　人間学部教育人間学科　専任講師
（2013年4月～　青山学院大学　社会情報学部　准教授）
大正大学における教育連携事業（学校インターンシップ）の担当教員（2012年度まで）。
状況的学習論の立場から、「現場の学び」について研究してきた。

学校支援ボランティア・インターンシップのテキスト～より良い教育現場体験のために～

２０１３年３月１日発行　第１刷発行

編著：長島美里・香川秀太
発行所：有限会社立花印刷